SONY

2-661-555-**05**(1)

DVDホームシアターシステム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

DVD VIDEO　COMPACT disc DIGITAL VIDEO　COMPACT disc DIGITAL AUDIO TEXT　MP3

DAV-DZ110

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

⬇

安全のための注意事項を守る

5～7ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。8ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



➡

1. **電源を切る**
2. **電源プラグをコンセントから抜く**
3. **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



火災　感電　指のケガに注意

行為を禁止する記号



禁止　分解禁止　接触禁止　ぬれ手禁止

行為を指示する記号



指示　プラグをコンセントから抜く

目次

安全のために 2
警告 5
注意 6
電池についての安全上のご注意 7
使用上のご注意 8
この取扱説明書の使いかた 9
再生できるディスクについて 9

接続と設定—基本編

手順 1：スピーカーやテレビをつなぐ 14
手順 2：システムを設置する 20
手順 3：クイック設定をする 21

接続と設定—応用編

デモ画面を切る 24
スピーカーを壁に取り付ける 25
テレビをつなぐ（応用編） 26
その他の機器をつなぐ 29

基本的な操作

ディスクを再生する 30
ラジオやつないだ機器の音を楽しむ 31
テレビやビデオの音声をすべてのスピーカーで楽しむ 32
音響効果を選ぶ 33

音声を楽しむ

サラウンドを楽しむ 34

ディスク再生—いろいろな機能

見たいところ、聞きたいところを探す 36
（スキャン / スロー再生 / コマ送り）
タイトルやチャプター、トラック、シーンなどを使って検索する 37
シーンで検索する 39
（ピクチャーナビ）
再生を止めたところから再生する 40
（リジューム再生）
好きな順に再生する 41
（プログラム再生）
順不同に再生する 42
（シャッフル再生）
繰り返し再生する 43
（リピート再生）
DVD に記録されているメニューを使う 44
音声を切り換える 45
DVD-R/DVD-RW の [オリジナル] または [プレイリスト] を選んで再生する 46
ディスクの情報を見る 47
アングルを切り換える 49
字幕を表示する 50
音声と映像のずれを調節する 50
（AV/SYNC）
MP3 音声トラックと JPEG 画像ファイルについて 51
データ CD やデータ DVD に記録された MP3 音声トラックと JPEG 画像ファイルを再生する 53
JPEG 画像ファイルを音声つきでスライドショーとして楽しむ 55
プレイバックコントロール機能（Ver. 2.0）を使う 58
（PBC 再生）

ラジオ

放送局を登録する（プリセット） 59

その他の機能

付属のリモコンでテレビを操作する 62
ボタン 1 つで DVD を見られるようにする（シアターシンク機能） 62
サウンド効果を変える 63
スリープタイマーを使う 64
本体表示の明るさを調節する 64

次のページへつづく

詳細な設定と調整

ディスクの再生を制限する……65
（カスタム視聴制限、視聴制限）
スピーカー設置にあわせて最適なサラウンド環境を設定する……69
（スピーカー配置）
自動でスピーカーを設定する……71
（自動音場補正機能）
設定画面を使う……73
表示言語や音声言語の設定をする……74
（言語設定）
画像に関する設定をする……75
（画面設定）
視聴に関する設定をする……77
（視聴設定）
スピーカーに関する設定をする……78
（スピーカー設定）
設定項目をお買い上げ時の設定に戻す……81

その他

ディスクの取り扱い上のご注意……82
故障かな？と思ったら……82
自己診断機能……86
（本体の表示窓に文字や数字が表れたとき）
保証書とアフターサービス……87
主な仕様……88
用語解説……90
言語コード一覧表……92
各部のなまえ……94
コントロールメニュー画面の見かた……96
設定画面項目一覧表……99
アンプメニュー項目一覧表……100
索引……101
リモコン……104

⚠警告

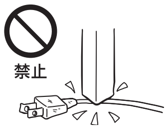


下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

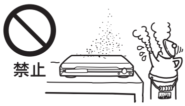
- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



内部に水や異物が入らないようにする

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。また、本機を水滴のかかる場所に置かないでください。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源ボタンを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

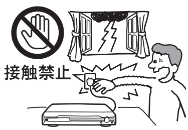
火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



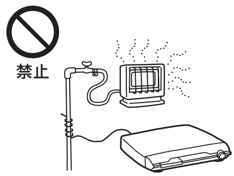
本機を日本国外で使わない

交流 100V の電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



ガス管にアース線やアンテナ線をつながない

火災や爆発の原因となります。



⚠注意

下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



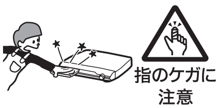
風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない



布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

幼児の手の届かない場所に置く

ディスクの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。



大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときにはご注意ください。

➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。



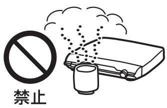
安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。



ディスクトレイの前に物を置かない

ディスクを取り出す際に、物が倒れて破損やけがの原因となることがあります。本体の前に物を置かないでください。



電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。通常、本体の電源ボタンを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



コード類は正しく配置する

電源コードや AV ケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



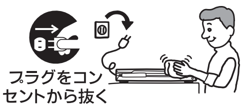
移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



ひび割れ、変形したディスクや補修したディスクを再生しない

本体内部でディスクが破損し、けがの原因となることがあります。



電池についての安全上のご注意

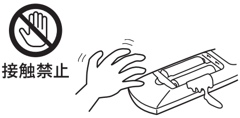
液漏れ・破裂・発熱による**大けが**や**失明**を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。



必ず次の処理をする

➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。



➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

⚠警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

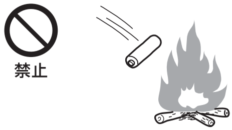
➡ 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。



➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

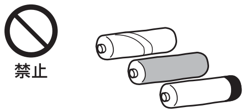
電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



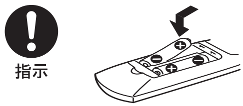
指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



＋と－の向きを正しく入れる

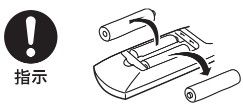
＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。
- ぐらついた台の上や不安定な所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。
- チューナーやテレビ、ビデオデッキから近い所。(チューナーやテレビ、ビデオデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。)
- 電子レンジや大きなスピーカーなど、強力な磁気を発するものの近く。

設置時のご注意

- 本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本体後面の通気孔をふさぐと、機械内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。本体後面の通気孔を絶対にふさがないでください。
- 本機の上に重いものを置かないでください。

設置場所を変えるときは

ディスクを入れたまま、本体を動かさないでください。
ディスクを入れたまま動かすと、ディスクを傷めることがあります。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



結露について

部屋の暖房を入れた直後など、内部のレンズに水滴がつくことがあります。これを結露といいます。このときは、正常に動作しないばかりでなく、ディスクや部品を傷めることがあります。本機を使わないときは、ディスクを取り出しておいてください。
結露が生じたときは、ディスクを取り出して、電源を入れたまま約30分放置し、再び電源を入れ直してからお使いください。もし何時間たっても正常に動作しないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

クリーニングディスク、ディスククリーナーについて

市販のレンズ用のクリーニングディスクやディスククリーナー（湿式またはスプレー式）は、本機では使わないでください。故障するおそれがあります。

残像現象（画像の焼きつき）のご注意
DVDメニューやタイトルメニュー、ビデオCDのメニュー、本機の設定画面などの静止画をテレビ画面に表示したまま長時間放置しないでください。画面に残像現象（画像の焼きつき）を起こす場合があります。特にプロジェクションテレビでは残像現象（画像の焼きつき）が起こりやすいのでご注意ください。

テレビ画面に色むらが起きたら

本機のスピーカーによりテレビ画面に色むらが起きた場合は、テレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れてください。それでも色むらが残るときは、スピーカーをさらにテレビから離してください。

輸送時のご注意

セットを輸送する場合は、必ず本体からディスクを取り出し、電源コードを抜いてください。
但し、電源コードを長時間抜いた場合は、設定がクリアされることがあります。

機銘板の位置について

機銘板は本機の底面に表示してあります。

この取扱説明書の使いかた

- この取扱説明書では、リモコンのボタンを使った操作説明を主体にしています。
  リモコンと同じなまえの本体のボタンも同じように使えます。
- この取扱説明書で“DVD”とは、“DVDビデオ”、“DVD+RW/DVD+R”、“DVD-RW/DVD-R”の一般的な総称として使っています。
- この取扱説明書では、次の記号を使っています。

記号	意味
DVD-V	DVDビデオ/DVD-R/DVD-RW（ビデオモード）/DVD+R/DVD+RWで使える機能
DVD-VR	DVD-R/DVD-RW（VRモード）で使える機能
VIDEO CD	ビデオCDで使える機能（スーパー VCD、ビデオCDまたはスーパーVCDフォーマットのCD-R/CD-RWを含む）
CD	CDで使える機能（音楽用CD、または音楽用CDフォーマットのCD-R/CD-RWを含む）
DATA-CD	データCD（MP3*音声トラック、またはJPEG画像ファイルを含むCD-ROM/CD-R/CD-RW）で使える機能
DATA DVD	データDVD（MP3*音声トラック、またはJPEG画像ファイルを含むDVD-ROM/DVD-R/DVD-RW/DVD+R/DVD+RW）で使える機能

* MPEG 1 Audio Layer3 : MPEGと国際標準化機構（ISO）/国際電気標準会議（IEC）によって規定された音声のデジタル圧縮規格のひとつ。

再生できるディスクについて

ディスクの種類	ディスクに付いているマーク（ロゴ）
DVDビデオ	DVD VIDEO
DVD-RW*	DVD RW
DVD-R*	DVD R R4.7
DVD+RW	RW DVD+ReWritable
DVD+R	RW DVD+R
DVD+R DL	RW DVD+R DL
ビデオCD（バージョン1.1/2.0）、音楽用CD	COMPACT disc DIGITAL VIDEO / COMPACT disc DIGITAL AUDIO
CD-R/CD-RW（音楽データ）（MP3音声トラック）（JPEG画像ファイル）	COMPACT disc DIGITAL AUDIO ReWritable / COMPACT disc DIGITAL AUDIO Recordable / COMPACT disc ReWritable / COMPACT disc Recordable

“DVD VIDEO”、“DVD-RW”、“DVD-R”、“DVD+RW”、“DVD+R”、“DVD+R DL”、“CD”ロゴは商標です。

* CPRM対応のDVD-R/DVD-RWディスクに録画した「1回だけ録画可能」な番組も再生できます。CPRM(Content Protection for Recordable Media)とは、「1回だけ録画可能」な番組に対する著作権保護技術です。

次のページへつづく

ディスクについてのご注意

本機では以下のフォーマットで記録されたCD-ROM/CD-R/CD-RWを再生することができます。

ー 音楽用CDフォーマット
ー ビデオCDフォーマット
ー ISO 9660* レベル 1/ レベル 2、またはそれらの拡張フォーマット / Joliet 準拠のMP3 音声トラック、JPEG 画像ファイル

本機では以下のフォーマットで記録されたDVD-ROM/DVD+RW/DVD-RW/DVD+R/DVD-Rを再生することができます。

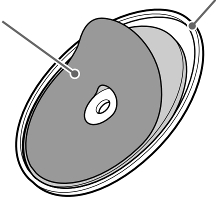
ー UDF（Universal Disk Format）準拠のMP3音声トラック、JPEG画像ファイル

＊ ISO9660フォーマット
国際標準化機構（ISO）が制定したCD-ROMの論理フォーマット。
レベル1からレベル3まで、3段階の交換レベルを設けています。レベル1は、最も制限の厳しいレベルで、ファイル名は8.3形式（ファイル名は最大8文字、拡張子は最大3文字まで）という制約があります。レベル2はファイル名の長さの制約が31文字にまで緩和され、レベル3ではマルチエクステントが許容されています。

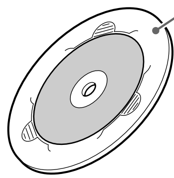
再生できないディスク、ファイルについて

本機では次のディスク、ファイルなどを再生することはできません。

- 「再生できるディスクについて」（9ページ）にあるフォーマット以外で記録されたCD-ROM/CD-R/CD-RW
- MP3音声トラック、またはJPEG画像ファイルを含まないデータDVD
- フォトCDフォーマットで記録したCD-ROM
- CD-EXTRAのデータ部分
- スーパーオーディオCD
- DVDオーディオ
- DVD-RAM
- 本機では再生できない地域番号（リージョンコード）のDVDビデオ（11、90ページ）
- MP3PROで記録されたMP3音声トラック
- NTSC以外のカラーテレビ方式（PAL、SECAM）対応のディスク（本機がNTSCカラーテレビ方式対応のため）
- 円形以外の特殊な形状（カード型、ハート型、星形など）をしたディスク
- 紙やシールの貼られたディスク
- セロハンテープやレンタルディスクのラベルなどの糊がはみ出したり、はがした跡のあるディスク
- 市販されているシールやリングなどのアクセサリーを取りつけたディスク



- 8cmディスクを標準ディスクに変換するアダプターを使用したディスク



CD-R/CD-RW/DVD-R/DVD-RW/DVD+R/DVD+RWについてのご注意

- 本機はお客様が編集したCD-R/CD-RW/DVD-R/DVD-RW/DVD+R/DVD+RW/DVD+R DLディスクを再生できます。ただし、録音に使用したレコーダーやディスクの状態によっては再生できない場合があります。
- 終了情報を記録するファイナライズ作業を行っていないディスクは再生できません。
- パケットライト方式で作成されたディスクは再生できません。

CD再生時のご注意

本製品は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として、設計されています。最近、いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本製品で再生できない場合があります。

DualDisc（デュアルディスク）についてのご注意

DualDiscとはDVD規格に準拠した面と、音楽専用面とを組み合わせた新しい両面ディスクです。
なお、この音楽専用面はコンパクトディスク（CD）規格には準拠していないため、本製品での再生は保証いたしません。

PBC（プレイバックコントロール）について（ビデオCD）

本機は、PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）にも対応しています。（PBCとは、Playback Controlの略です。）
ディスクのタイプによって、次の2種類の再生を楽しめます。

ディスクタイプ	楽しみかた
PBC対応でないビデオCD（バージョン1.1）	音楽用CDと同じように操作して、音声と映像（動画）を再生できます。
PBC対応ビデオCD（バージョン2.0）	上記（PBC対応でない場合）の楽しみかたに加えて、テレビ画面に表示されるメニュー画面（選択画面）を使って、対話型のソフトや検索機能のあるソフトを再生できます（PBC再生、58 ページ）。また、高精細の静止画も再生できます。

マルチセッションCDについて

MP3音声トラックまたはJPEG画像ファイルがディスクの最初のセッションに記録されているときは、そのほかのセッションのMP3音声トラックおよびJPEG画像ファイルも再生します。
最初のセッションにCD、ビデオCDフォーマットで記録された音声または画像があるときは、最初のセッションだけを再生します。

DVDの地域番号（リージョンコード）について

DVDビデオのパッケージには地域番号が表示されています。
地域番号に「ALL」または「2」が含まれているときは、本機で再生可能です。

DVD、ビデオCD再生操作について

DVD、ビデオCDはソフト制作者の意図により再生状態が決められていることがあります。本機ではソフト制作者が意図したディスク内容にしたがって再生を行うため、操作したとおりに機能が働かない場合があります。
再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

次のページへつづく

著作権について

本機は、米国特許権及びその他の知的所有権によって保護された著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロビジョンの許諾が必要であり、マクロビジョンが特別に許諾する場合を除いては、一般家庭その他における限られた視聴用以外に使用してはならないこととされています。改造または分解は禁止されています。

本機はドルビーデジタルデコーダーおよびドルビープロロジック（II）アダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、DTS*デコーダーを搭載しています。

本機は5.1チャンネルを完全にデコードしますが、市販のサラウンドスピーカーをつないで使うことはできません。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logicロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

* Digital Theater Systems, Incからの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDigital Theater Systems, Incの商標です。

本製品の日本語表示には、株式会社リコー所有の文字フォントを使用しています。

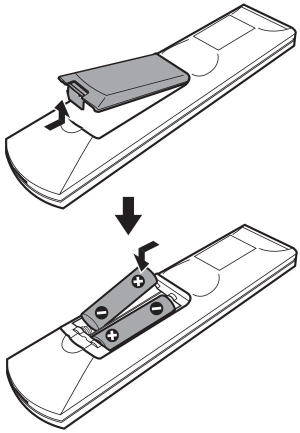
接続と設定—基本編

すべての付属品がそろっているかを主な仕様(88ページ)で確認してください。

リモコンに電池を入れる

付属のリモコンで本機を操作できます。⊕と⊖の向きを合わせて、単3形乾電池（R6、付属）2個を入れてください。

本機を操作するときは、本体のリモコン受光部（94ページ）にリモコンを向けて操作してください。

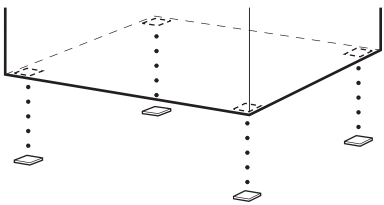


ご注意

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 乾電池を交換するときは、異物が入らないようにご注意ください。
- 乾電池の使いかたを誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。
  次のことを必ず守ってください。
  ー 新しい乾電池と使用途中の乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使わないでください。
  ー 乾電池は充電しないでください。
  ー 長い間リモコンを使わないときは、乾電池を取り出してください。
  ー 液漏れしたときは、電池入れについた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。

サブウーファーにスピーカーパッドを貼る

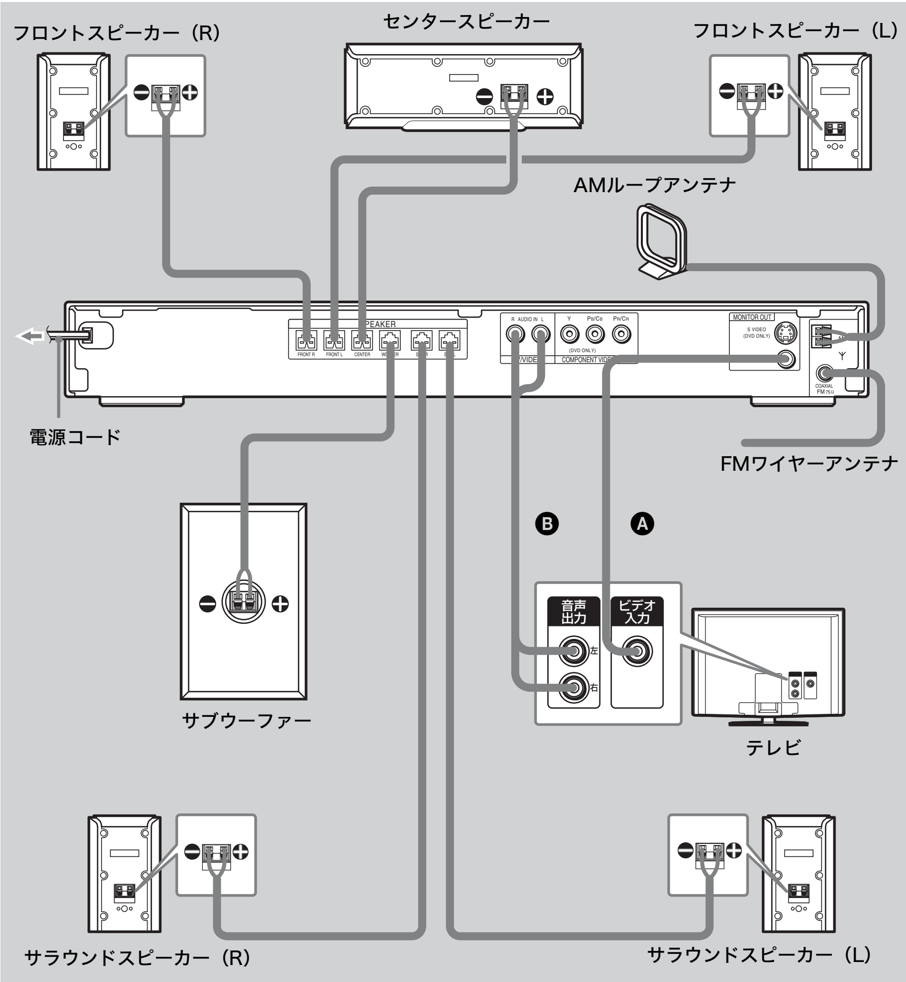
サブウーファーが振動で動かないように、サブウーファーの底面の四隅に付属のスピーカーパッドを貼ってください。



手順1：スピーカーやテレビをつなぐ

下記は本機とスピーカーやテレビの基本的な接続図です。
下記以外のテレビの接続については26ページをご覧ください。その他の機器の接続については29ページをご覧ください。
プログレッシブ対応のテレビへの接続については27ページをご確認ください。

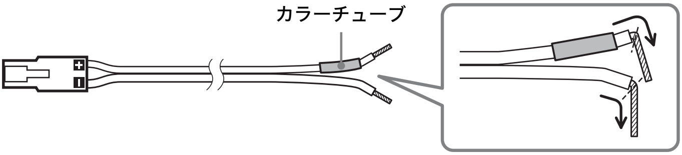
下記の接続図を参考に接続してください。また次ページの①～④についてもお読みください。



①スピーカーをつなぐ

必要な接続コード

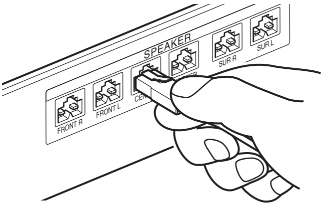
スピーカーコードのコネクターとカラーチューブは、つなぐスピーカー端子のカラーラベルと同じ色になっています。カラーチューブがついたスピーカーコードを必ずスピーカー端子の+側につないでください。



スピーカーコードの接続

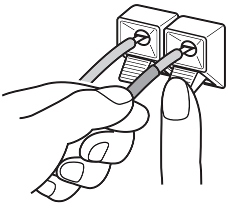
スピーカーコードのコネクターを図のように持ち、スピーカー端子にカチッと音がするまでコネクターを押し込んでください。

本体側



スピーカーコードを差し込むときは、必ず片手でレバーを押し下げ、もう一方の手でコードを差し込んでください。

スピーカー側



ご注意

- スピーカーコードの被覆部をスピーカー端子に挟み込まないようにつないでください。

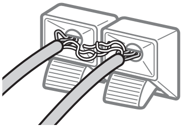
スピーカーのショートを防止する

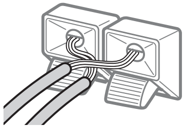
スピーカーをショートさせると本機の故障の原因になります。
ショートを防ぐために、スピーカーを接続するときは以下のことに十分注意してください。

スピーカーコードの両端の被覆がはがれている部分が、他のコードの先端と接触しないように気をつけてください。

次のページへつづく

スピーカーコード接続の悪い例





すべての機器、スピーカーコードの接続が完了したら、電源コードをコンセントへ接続し、すべてのスピーカーが正しく接続されているかを確認するため、テストトーンを出します。テストトーンの出しかたは80ページをご覧ください。

テストトーンを出力中、何も聞こえなかったり、本体のディスプレイに表示されているスピーカー名と一致しないスピーカーからテストトーンが出たときは、スピーカーがショートしている恐れがあります。このときはもう一度スピーカーコードの接続を確認してください。

ご注意

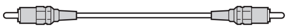
- スピーカーコードはスピーカー端子の極性に合わせて＋は＋どうし、－は－どうしでつなぎます。極性を間違えると、音が歪んだり低音不足に聞こえます。

②テレビをつなぐ

必要な接続コード

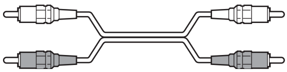
Ⓐ 映像入力端子のあるテレビにつなぐ

映像コード（付属）を使って、テレビの映像入力端子と本機の映像出力端子（MONITOR OUTのVIDEO）をつなぎます。

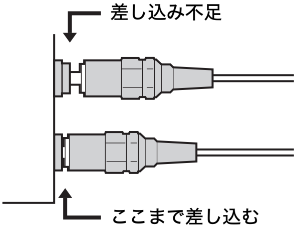


Ⓑ 音声出力端子のあるテレビにつなぐ

ステレオ音声コード（別売り）を使って、テレビの音声出力端子と、本機の音声入力端子（TV/VIDEOのAUDIO IN）につなぎます。白（左）端子には白プラグを、赤（右）端子には赤プラグを差し込みます。
ファンクションの切り換えについて詳しくは「ラジオやつないだ機器の音を楽しむ」（31ページ）をご覧ください。

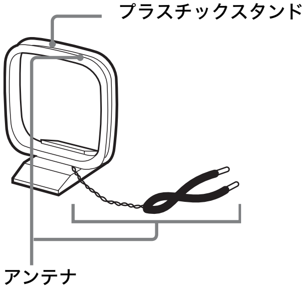


ちょっと一言
- コードをつなぐとき、プラグは根元までしっかり差し込んでください。



③アンテナをつなぐ

AMアンテナをつなぐ

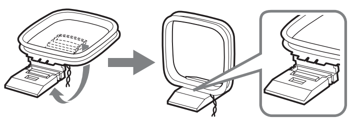


アンテナはAMの電波を受信しやすい形状、長さになっています。はずしたり、丸めたりしないでください。

1　ループ（～～～）になっている部分のみをプラスチックスタンドからはずす。

2　スタンド状に組み立てる。

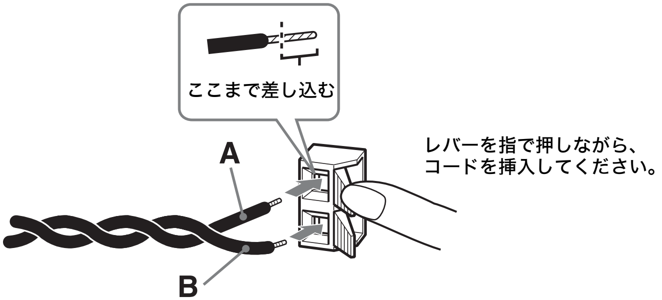
台を起こし、溝にはめます。



次のページへつづく

3 AMアンテナ端子にアンテナコードをつなぐ。

付属のＡＭループアンテナは、コード（A）（B）をどちらの端子にもつなぐことができます。



ご注意

- 雑音の原因になるため、AMループアンテナは本機や他のAV機器の近くに置かないでください。

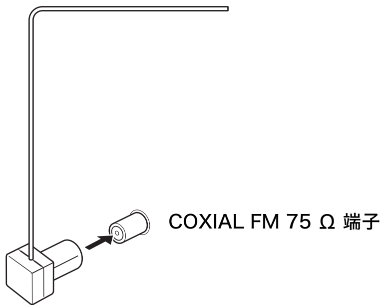
ちょっと一言

- AM放送の受信状態が良くないときは、付属のAMループアンテナの向きを受信状態の良い方向へ変えてください。

4 アンテナコードを軽く引いてみて、しっかり接続されたことを確認する。

FMアンテナをつなぐ

FMアンテナ端子につなぐ。

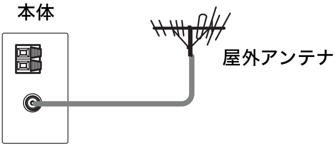


ご注意

- FMワイヤーアンテナをつないだ後は、受信状態の良い向きを探してください。
- FMワイヤーアンテナを壁にはるときは、受信状態の良い壁面を探してください。
- FMワイヤーアンテナは束ねたまま使用しないでください。
- FMワイヤーアンテナは奥まで確実に差し込んでください。

ちょっと一言

- FM放送の受信状態が良くないときは、次のように、市販の75Ω同軸ケーブルを使って、本体と屋外アンテナをつなぎます。



④電源コードをつなぐ

スピーカーやテレビをつないでから、本体の電源コードを壁のコンセントにつないでください。

ご注意

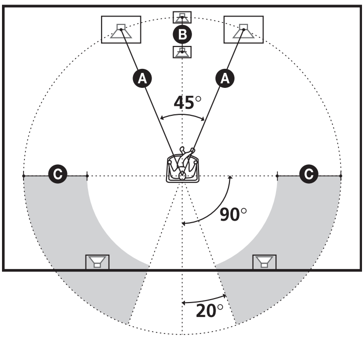
- 本機は、コンセントの近くでお使い下さい。ご使用中不具合が生じた時は、すぐにコンセントから電源プラグを抜き、電源を遮断して下さい。

手順2：システムを設置する

スピーカーを設置する

サラウンド効果を十分に楽しむためには、サブウーファー以外の5つのスピーカーをリスニングポジションからなるべく等距離（リスニングポジションを中心とした同心円上）に設置してください。本機ではフロントスピーカーをリスニングポジションから1 m～7 mのところに設置が可能です（距離Ⓐ）。
ただし本機ではご使用になる部屋の形に対応するため、以下の設置も可能です。具体的な設置場所については下図をご覧ください。

- センタースピーカーを、リスニングポジションを中心とした同心円上からリスニングポジションに向かって0 m～約1.6 m（距離Ⓑ）近づける。
- サラウンドスピーカーを、リスニングポジションを中心とした同心円上からリスニングポジションに向かって0 m～約5 m（距離Ⓒ）近づける。

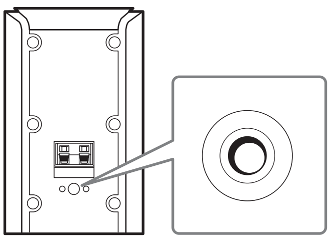


ご注意

- スピーカーを以下のような場所には置かないでください。
  - 傾いた所。
  - 極端に温度が高い所または低い所。
  - ほこりの多い所。
  - 湿気の多い所。
  - ぐらついた台の上など。
  - 直射日光が当たる所。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に、スピーカーおよび、スピーカーを取り付けたスタンド（別売り）を置くときは、床に変色、染みなどが残ることがあります。
- お手入れのときは、眼鏡拭きのクロスのような柔らかい布を使ってください。
- 研磨用パッドや研磨剤、シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

ちょっと一言

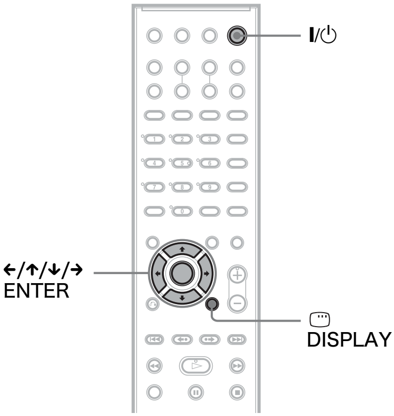
- スピーカーの配置を変えた場合、設定の変更をおすすめします。詳しくは、「スピーカー設置にあわせて最適なサラウンド環境を設定する」（69ページ）、「自動でスピーカーを設定する」（71ページ）をご覧ください。
- 別売りのスピーカースタンドを取り付けることもできます。その場合は、スタンド固定用ネジ穴に取り付けてください。詳しくはスタンドの取扱説明書をご覧ください。



スタンド固定用ネジ穴

手順3：クイック設定をする

本機を使用するのに必要な最低限の設定を行います。



1 テレビの電源を入れる。

2 I/⏻電源ボタンを押し、本機の電源を入れる。

本体の表示窓に「DVD」が表示されます。「DVD」が表示されないときは、FUNCTIONボタンを繰り返し押して「DVD」を表示させます。

ご注意

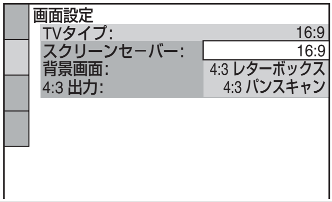
- クイック設定中はヘッドホンをつながないでください。ヘッドホンをつないでいると手順8以降の設定が行えません。

3 本機の映像が映るようにテレビの入力を切り換える。

画面の下部に[クイック設定するには[ENTER]を押してください]のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されないときは、クイック設定画面を表示させて行ってください（23ページ）。

4 ディスクを入れない状態でENTERボタンを押す。

つないだテレビの縦横比の設定画面がテレビに表示されます。



5 ↑/↓ を使って本機に接続したテレビ画面の縦横比を選ぶ。

■ 4:3スクリーンタイプのテレビをお使いのときは

[4:3レターボックス]または[4:3パンスキャン]を選びます（75ページ）。

■ ワイドスクリーンタイプのテレビ、またはワイドスクリーンモードのある4:3スクリーンタイプのテレビをお使いのときは

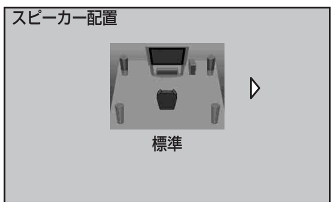
[16:9]を選びます（75ページ）。

6 ENTERボタンを押す。

スピーカー配置の設定画面が表示されます。

7 ←/→ を使って実際のスピーカーの設置場所と同じスピーカー配置のイメージ画面を選び、ENTERボタンを押す。

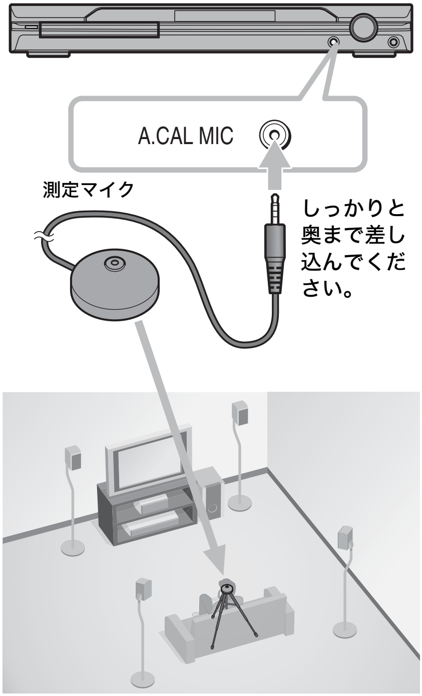
詳しくは「スピーカー設置にあわせて最適なサラウンド環境を設定する」（69ページ）をご覧ください。



次のページへつづく

8　本体前面のA.CAL.MIC端子に測定マイクを接続し、↑/↓で[はい]を選びENTERボタンを押す。

マイクは実際に視聴する位置に設置します。耳と同じ高さになるように、市販の台や三脚を使って固定してください。各スピーカーの前面がマイクに向くようにして、スピーカーとマイクの間に障害物などがないようにしてください。測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。



自動音場補正

測定マイクの接続を確認してください
測定を開始しますか

はい
いいえ

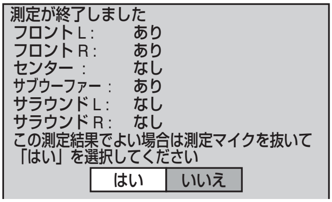
[自動音場補正]を開始します。

ご注意

- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- 測定中（約3分間）は測定の妨げにならないよう測定エリア（機器の設置エリア）の外側に出てください。

9 測定マイクを抜き、←/→ を使って[はい]を選び、ENTERボタンを押す。

クイック設定は完了しました。すべての接続と設定作業は完了です。



ご注意

- サブウーファーが接続されていない場合でも「あり」と表示されます。
- サブウーファーの測定は行われません。
- 測定が失敗したときは画面にしたがって[自動音場補正]を再度行ってください。

クイック設定をやめるには

DISPLAYボタンを押します。

ちょっと一言

- スピーカーの設置場所を変更したときは、スピーカー設定を再度行ってください。詳しくは「スピーカー設置にあわせて最適なサラウンド環境を設定する」（69ページ）や「自動でスピーカーを設定する」（71ページ）をご覧ください。
- 設定を変更したいときは、「設定画面を使う」（73ページ）をご覧ください。

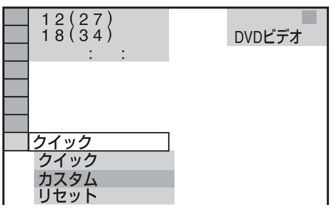
クイック設定の画面を呼び出すには

1 本機が停止中のとき、DISPLAYボタンを押す。

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ を使って [設定]を選び、ENTERボタンを押す。

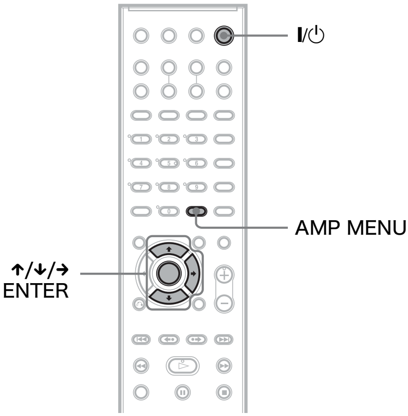
[設定]の項目が表示されます。



3 ↑/↓ を使って[クイック]を選び、ENTERボタンを押す。

クイック設定画面が表示されます。

デモ画面を切る



電源コードをつなぐと、本体の表示窓にデモ画面が表示されます。リモコンのI/⏻電源ボタンを押すと、デモ画面を切ることができます。

ご注意

- 本体のI/⏻ 電源ボタンを押してもデモ画面を切ることはできません。
- アンプメニューでデモンストレーションモードを「ON」にしているときは、リモコンのI/⏻電源ボタンを押してもデモ画面を切ることはできません。デモ画面を切るには、デモンストレーションモードを「OFF」にし、リモコンのI/⏻電源ボタンを押します。デモンストレーションモードが「OFF」のとき、本体はスタンバイモード（30ページ）になります。

デモンストレーションモードを設定する

1 AMP MENUボタンを押す。

2 ↑/↓を使って本体の表示窓に「DEMO」を表示させてからENTERボタンまたは→を押す。

3 ↑/↓を使って本体の表示窓にお好みの設定を表示させる。

- 「DEMO ON」
  電源がOFFのとき本体の表示窓にデモ画面が表示されます。
- 「DEMO OFF」
  デモ画面が表示されません。

4 ENTERボタンを押す。

選択項目が設定されます。

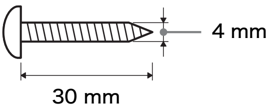
5 AMP MENUボタンを押す。

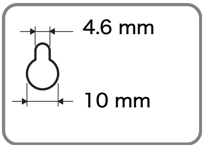
アンプメニューを終了します。

スピーカーを壁に取り付ける

1 スピーカー背面の穴に合うネジ（別売り）を用意する。

ネジのサイズについては下記の図でご確認ください。

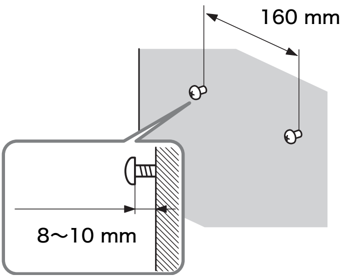




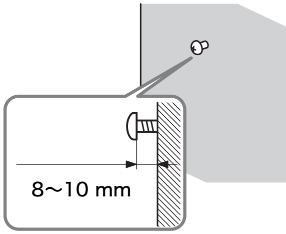
スピーカー背面の穴

2 壁にネジをとめる。

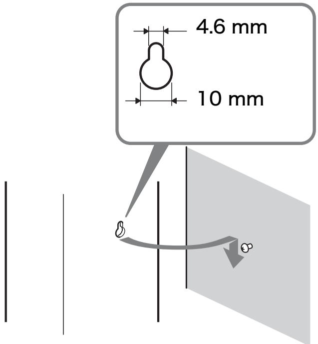
センタースピーカー



その他のスピーカー



3 スピーカー背面の穴をネジにかける



ご注意

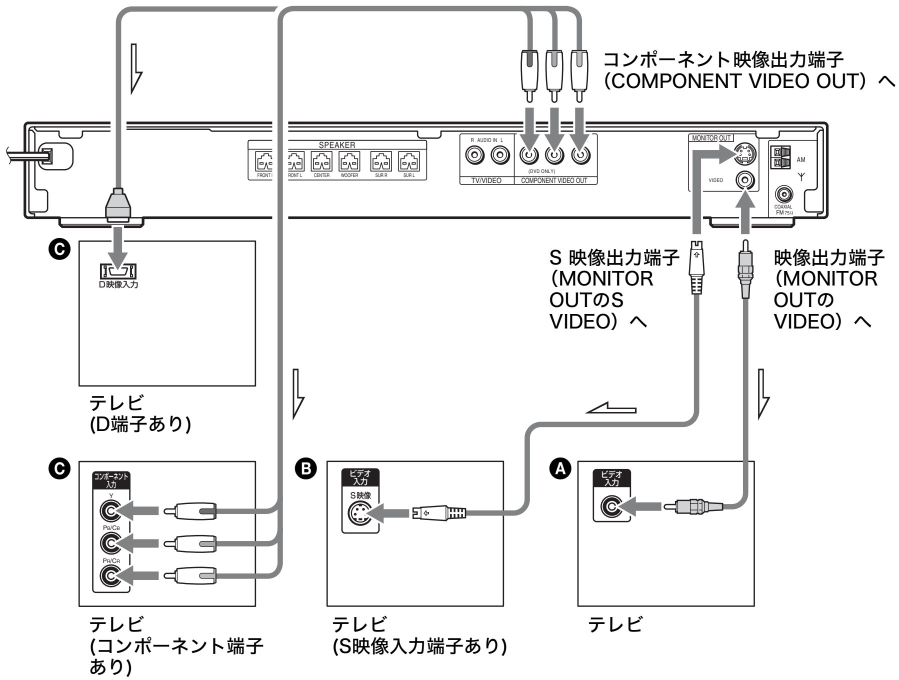
- 壁の材質や強度に合わせたネジを使ってください。壁の材質によっては破損する恐れがあります。ネジは柱部分にしっかりと固定してください。スピーカーは補強された壁に水平に取り付けてください。
- 販売店や工事店に依頼して、安全性に充分考慮して確実な取り付けを行ってください。
- 取り付けの不備、取り付け強度不足、誤使用、天災などによる事故、損傷につきましては、当社は一切責任を負いません。

テレビをつなぐ（応用編）

お使いのテレビの端子にあったコードを選びます。

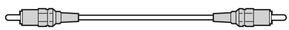
映像コードをつなぐ

再生するDVDの映像をテレビに送ります。
お持ちのテレビの端子にあわせて、下のⒶ、Ⓑ、Ⓒ方法から選ぶことができます。
Ⓐ→Ⓒの順で高画質になります。



Ⓐ 映像端子のあるテレビにつなぐ

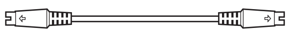
映像コード使って、テレビの映像入力端子と本機の映像出力端子（MONITOR OUTのVIDEO）をつなぎます（14ページ）。



黄（映像）

Ⓑ S映像入力端子のあるテレビにつなぐ

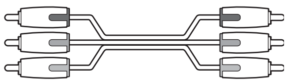
S映像コード（別売り）を使って、テレビのS映像入力端子と本機のS映像出力端子（MONITOR OUTのS VIDEO）をつなぎます。



Ⓒ D映像入力端子またはコンポーネント映像入力端子のあるテレビにつなぐ

コンポーネント映像コード（別売り）またはD端子映像コード（別売り）を使って、テレビ映像入力端子と、本機のコンポーネント映像出力端子（COMPONENT VIDEO OUTのY、PB/CB、PR/CR）をつなぎます。プログレッシブ方式に対応したテレビとつないだときは、本機をプログレッシブ出力に設定して高画質な映像を楽しむことができます（27ページ）。

コンポーネント映像
コード（別売り）



D端子映像コード
（別売り）

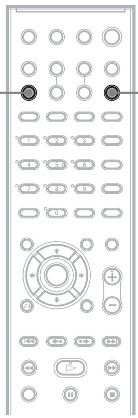


4：3のテレビにつなぐときは

再生するディスクによっては映像がテレビ画面に合わない場合があります。
テレビの画面の種類を変更するには、[画面設定]の[TVタイプ]（75ページ）をご覧ください。

映像をプログレッシブ信号で出力する

お使いのテレビがプログレッシブ信号に対応している場合は、以下の設定で高画質な映像を楽しむことができます。



本機がプログレッシブ信号を出力しているときは、本体の表示窓に「PROGRE」が点灯されます。

1 FUNCTIONボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「DVD」を表示する。

2 PROGRESSIVEボタンを押す。

次のページへつづく

PROGRESSIVEボタンを押すたびに、本体の表示窓に次のように表示されます。(お買い上げ時は、INTERLACE(インターレース)に設定されています)。

→ P AUTO(プログレッシブ　オート)
↓
P VIDEO(プログレッシブ　ビデオ)
↓
INTERLACE(インターレース)

■P AUTO(プログレッシブ　オート)

この設定は、下記のいずれの条件も満たしている場合に選びます。

ー お使いのテレビがプログレッシブ信号に対応している。
ー 本体のコンポーネント映像出力端子(COMPONENT VIDEO OUT)につながれている。

本機が自動的に映像素材の種類を検出し、適切なプログレッシブ変換方法を選択します。上記の条件を満たしていない場合にこの設定を選ぶと、映像が乱れたり、映像が画面に表れない場合があります。

■P VIDEO(プログレッシブ　ビデオ)

この設定は、下記のいずれの条件も満たしている場合に選びます。

ー お使いのテレビがプログレッシブ信号に対応している。
ー 本体のコンポーネント映像出力端子(COMPONENT VIDEO OUT)につながれている。
ー プログレッシブ信号への変換方法を、ビデオ素材用に固定したいとき。

P AUTOに設定して画面が乱れた場合は、この設定にしてください。上記の条件を満たしていない場合は、この設定を選んでも映像が乱れたり、映像が画面に表れない場合があります。その場合は、次のINTERLACE(インターレース)を選んでください。

■INTERLACE(インターレース)

この設定は、下記の場合に選びます。

ー お使いのテレビがプログレッシブ信号に対応していない。
ー 本体の映像/S映像出力端子(MONITOR OUTのVIDEO/S VIDEO)につながれている。

DVDの素材と表示方式について

DVDの映像素材には、ビデオ素材とフィルム素材の2種類があります。ビデオ素材は、1秒30フレーム、60フィールドでDVDに記録されたもので、一般的にテレビドラマやテレビアニメーションなどの番組があります。フィルム素材は、1秒24コマでDVDに記録されたもので、映画フィルムの多くがこれにあたります。DVDの中には、ビデオ素材とフィルム素材の両方が記録されているものがあります。

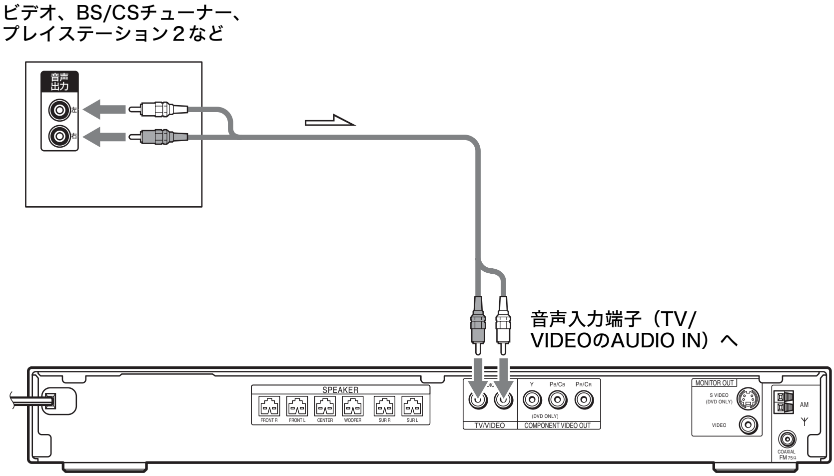
これらの映像をより自然な画質でお楽しみいただくには、映像素材に合わせた方法でプログレッシブ信号に変換する必要があります。

ご注意

- ビデオ素材のDVDをプログレッシブ信号で再生するとき、コンポーネント映像出力端子(COMPONENT VIDEO OUT)より出力される映像の切り替わり部分が表示処理により不自然になる場合があります。また、プログレッシブ　オートまたはプログレッシブ　ビデオ設定にしていても、映像/S映像出力端子(MONITOR OUTのVIDEO/S VIDEO)より出力される映像は、インターレース形式で出力されるため乱れません。

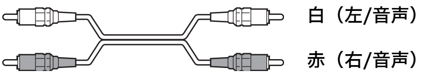
その他の機器をつなぐ

お使いのさまざまな機器を本機の音声入力端子（TV/VIDEOのAUDIO IN）につないで、本機のスピーカーから音声を出力することができます。映像を出力するには、直接テレビにつないでください。



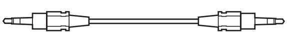
音声出力端子のある機器につなぐ

ステレオ音声コード（別売り）を使って、ビデオなどの機器の音声出力端子と、本体の音声入力端子（TV/VIDEOのAUDIO IN）につなぎます。白（左）端子には白プラグを、赤（右）端子には赤プラグを差し込みます。



ポータブルオーディオプレイヤーを本機で聞く

ポータブルオーディオプレーヤーなどを、ステレオミニプラグコード（別売り）を使って本体前面の音声入力端子（AUDIO IN）につなぎます。



ちょっと一言

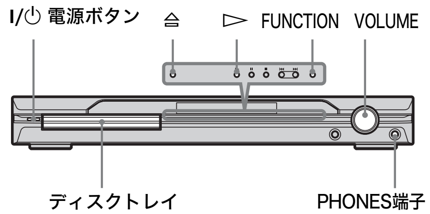
- ポータブルオーディオプレーヤーのMP3音声トラックを聞く場合、音質を高めることができます。FUNCTIONボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「AUDIO」を表示させます。ポータブルオーディオプレーヤーをつなぎ、SOUND FIELDボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「A.F.D.STD」を表示させます。

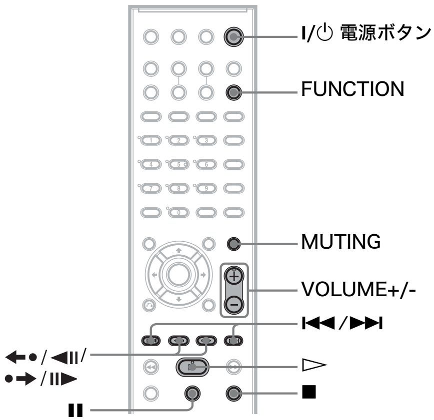
ご注意

- 雑音を防ぐために、プラグはしっかりと差し込んでください。
- 音量を調節できる機器をつなぐときには、音が歪まない程度つないだ機器の音量を上げてください。

ディスクを再生する

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　CD　DATA-CD　DATA DVD





再生するDVDビデオ、ビデオCDの種類によっては、操作が違ったり、禁止されている操作があります。
再生するディスクに付属の説明書も必ずご覧ください。

1　テレビの電源を入れる。

2　本機の映像が映るようにテレビの入力を切り換える。

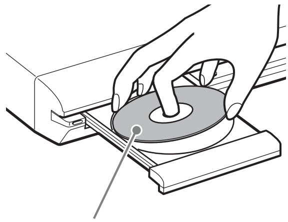
3　本体のI/⏻電源ボタンを押す。

本機の電源が入ります。
ファンクションが「DVD」ではないときは、本体の表示窓に「DVD」と表示されるまでFUNCTIONボタンを繰り返し押してください。

4　本体の⏏を押す。

5　ディスクを入れる。

ディスクをディスクトレイに置き、本体の⏏を押してください。



８ｃｍディスクをお使いのときは、ディスクトレイの内側の溝にあわせて置いてください。

ご注意
- ディスクトレイを手で閉めないでください。故障の原因になります。
- 2枚以上のディスクを入れないでください。

6　▷ を押す。

再生が始まります。音量を調節してください。
音量レベルがテレビ画面と本体の表示窓に表示されます。

ご注意
- 本機の状態によってはテレビ画面に音量レベルが表示されない場合があります。

スタンバイモードで省電力

本体のI/⏻電源スイッチまたはリモコンのI/⏻電源ボタンを一回押します。

スタンバイモードを解除する

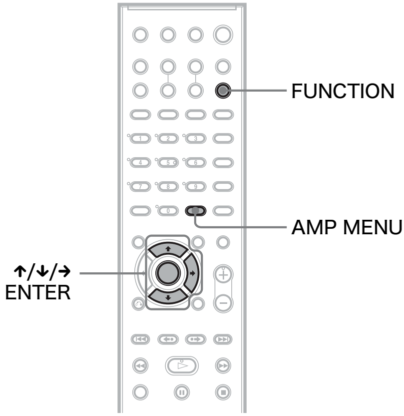
リモコンのI/⏻電源ボタンを一回押します。

いろいろな操作方法

こんなときは	操作
止める	■を押す
一時停止する	IIを押す
一時停止したあと、つづきを再生する	IIまたは▷を押す
再生中にチャプターや映像、曲を進める	▶▶Iを押す（JPEG画像ファイルは除く）
再生中にチャプターや映像、曲を戻す	I◀◀を押す（JPEG画像ファイルは除く）
消音する	MUTINGボタンを押す。消音をキャンセルするには、もう一度MUTINGボタンを押すか、VOLUME+ボタンで音量を上げる
ディスクを取り出す	本体の⏏を押す
少し前のシーンに戻す*	再生中に←●/◀II を押す
少し先のシーンに進める**	再生中に●→/II▶ を押す

* DVD ビデオ、DVD-RW、DVD-R のみ。
** DVD ビデオ、DVD-RW、DVD-R、DVD+RW、DVD+R のみ。

ラジオやつないだ機器の音を楽しむ



本機と接続した機器を選ぶ

本体の音声入力端子（TV/VIDEOのAUDIO IN）にビデオなどの機器をつなぐことができます。詳しくは接続した機器の取扱説明書をご確認ください。

FUNCTIONボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に再生したいものを表示させる。

FUNCTIONボタンを押すたびに、ファンクションは以下の順番で切り替わります。
DVD → TUNER FM → TUNER AM → TV/VIDEO → AUDIO → ....

接続機器からの入力レベルを変える

本体の音声入力端子（TV/VIDEOのAUDIO IN）や本体前面のAUDIO IN端子につないだ機器の音を聞く場合、つないだ機器によっては音が歪む場合がありますが、故障ではありません。
このような症状を防ぐため、つないだ機器からの入力レベルを変更します。

次のページへつづく

1 FUNCTIONボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「TV/VIDEO」または「AUDIO」を表示させる。

2 AMP MENUボタンを押す。

3 ↑/↓を使って表示窓に「ATTENUATE」を表示させてからENTERボタンまたは→を押す。

4 ↑/↓を使って本体の表示窓にお好みの設定を表示させる。

- 「ATT ON」
  本機への入力レベルを下げます。
- 「ATT OFF」
  通常の入力レベル。

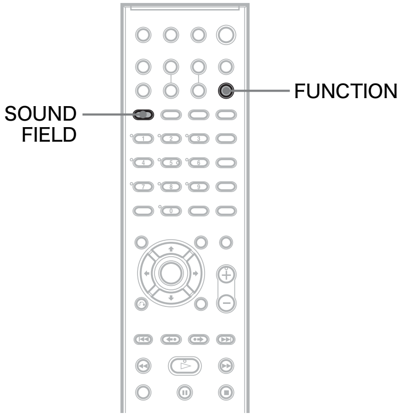
5 ENTERボタンを押す。

選択項目が設定されます。

6 AMP MENUボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

テレビやビデオの音声をすべてのスピーカーで楽しむ



1 FUNCTIONボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「TV/VIDEO」を表示させる。

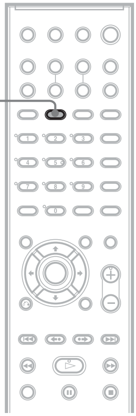
2 SOUND FIELDボタンを繰り返し押して、お好みのサウンドフィールドを表示させる。

テレビやビデオの音声を6本のスピーカーから出力したいときは、サウンドフィールドの「PRO LOGIC」、「PL II MOVIE」、または「PL II MUSIC」を選んでください。サウンドフィールドについて詳しくは34ページをご覧ください。

音響効果を選ぶ

DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD

映画や音楽など再生するソースに応じたサウンド効果が楽しめます。



再生中にMOVIE/MUSICボタンを押す。

MOVIE/MUSICボタンを繰り返し押して、本体の表示窓にお好みのモードを点灯させます。

- 「AUTO」（オートモード）
  再生するディスクに合わせたサウンド効果を自動的に選びます。
- 「MOVIE」（ムービーモード）
  映画を楽しむのに適しています。
- 「MUSIC」（ミュージックモード）
  音楽を楽しむのに適しています。

ちょっと一言

- ムービーモードやミュージックモードを選んだときは、本体の表示窓に[MOVIE]または[MUSIC]が表示されます。

ご注意

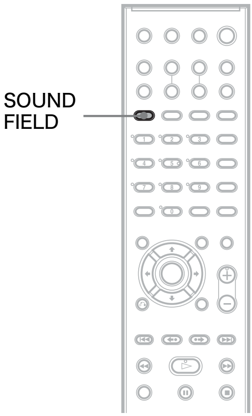
- ヘッドホンを本機につないでいると、このモードは操作できません。

基本的な操作

サラウンドを楽しむ

DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD

本機にプログラムされているサウンドフィールド（音場効果）を選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。



SOUND FIELDボタンを押す。

SOUND FIELDボタンを繰り返し押して、表示窓に希望するサウンドフィールドを表示させます。

すべてのサウンドフィールド

サウンドフィールド	表示窓の表示
AUTO FORMAT DIRECT STANDARD	A.F.D.STD
AUTO FORMAT DIRECT MULTI	A.F.D.MULTI
Dolby Pro Logic	PRO LOGIC
Dolby Pro Logic II MOVIE	PLII MOVIE
Dolby Pro Logic II MUSIC	PLII MUSIC
2 CHANNEL STEREO	2CH STEREO
HEADPHONE 2 CHANNEL STEREO	HP 2CH
HEADPHONE VIRTUAL	HP VIRTUAL

入力された音声をそのまま再生する

■ AUTO FORMAT DIRECT STANDARD

オートデコーディング機能は、入力された音声信号の種類を自動的に識別し（ドルビーデジタル、DTS、標準的な2チャンネルステレオなど）、必要に応じて適切なデコード処理を行います。このモードは何の音場効果（残響音など）も加えずに、録音された、またはエンコードされたままの音を再現します。しかし、低周波数の音声信号（ドルビーデジタルLFEなど）がない場合は、低周波数の音声信号がサブウーファーへの出力用につくられます。

複数のスピーカーから音声を出力する

■ AUTO FORMAT DIRECT MULTI

ディスクの種類に関わらず、複数のスピーカーから音声を出力します。

ご注意

• ソースによっては、複数のスピーカーから音が出ない場合があります。

CDなどの2チャンネルソースを5.1チャンネルで出力する

■ Dolby Pro Logic

サラウンド効果を再現するために、2チャンネルの音声信号をドルビープロロジック処理をして5チャンネルに振り分けます。サラウンドチャンネルの音声信号はモノラルになります。

■ Dolby Pro Logic II MOVIE/MUSIC
サラウンド効果を再現するために2チャンネルの音声信号を、ドルビープロロジックII処理をして5チャンネルに振り分けます。ドルビープロロジックIIはドルビープロロジックよりさらに空間的に広がりをもったサラウンド効果を特別なサウンドを加えることなしに実現したものです。

ご注意

- マルチチャンネルのソースを入力しているときは、Dolby Pro Logicや Pro Logic II MOVIE/MUSICはキャンセルされ、マルチチャンネルの音声信号はそのまま出力されます。
- 二ヶ国語放送の場合、Dolby Pro LogicやDolby Pro Logic II MOVIE/MUSICの効果は得られません。

フロントスピーカーとサブウーファーだけを使う

■ 2 CHANNEL STEREO
フロントL/Rスピーカーとサブウーファーの3本から音を出します。マルチチャンネル音声は2チャンネルにダウンミックスして再生します。
どんなソースもフロントL/Rスピーカーとサブウーファーの3本で再生ができます。

ヘッドホンでサラウンドを楽しむ

■ HEADPHONE 2 CHANNEL STEREO
2チャンネルの音声信号をヘッドホンに出力します。マルチチャンネルの信号は2チャンネルにダウンミックスして出力します。

■ HEADPHONE VIRTUAL
サラウンド音声をヘッドホンに出力します。マルチチャンネルの信号のときのみ有効です。

サウンド効果を消すには

SOUND FIELDボタンを繰り返し押して、表示窓に「A.F.D. STD」または「2CH STEREO」を表示させます。

ディスク再生―いろいろな機能

見たいところ、聞きたいところを探す

（スキャン/スロー再生/コマ送り）

DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD

再生しながら早送りや早戻しをして、見たいところや聞きたいところを探したり、
スロー再生をすることができます。

ご注意

- DVD、ビデオCDによっては操作が禁止されている場合があります。

早送り再生/早戻し再生をして見たいところ、聞きたいところを探す（スキャン）

（JPEG画像ファイルを除く）

ディスクを再生中に、◀▮/◀◀または▶▶/▮▶を押します。見たいところを見つけたら、▷を押して通常のスピードにします。スキャン中に◀▮/◀◀または▶▶/▮▶を繰り返し押すと、再生の速さが変わります。ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。ディスクによって実際の速さは異なります。

ボタンを押すたびに次のように表示が切り換わります。

再生方向

×2▶ → 1 ▶▶ → 2 ▶▶ → 3 ▶▶ （3 ▶▶から×2▶に戻る）

3 ▶▶（DVDビデオ/DVD-VR/ビデオCDのみ）

×2▶（DVDビデオ/CDのみ）

逆方向

×2◀ → 1 ◀◀ → 2 ◀◀ → 3 ◀◀ （3 ◀◀から×2◀に戻る）

3 ◀◀（DVDビデオ/DVD-VR/ビデオCDのみ）

×2◀（DVDビデオのみ）

ボタンを押すたびに再生速度は速くなります。

スロー再生をする

（DVDビデオ、DVD-R、DVD-RW、ビデオCDのみ）

本機が一時停止中に◀▮/◀◀または▶▶/▮▶を押します。▷を押すと通常の再生に戻ります。スロー再生をしているとき、ボタンを押すたびにスロー再生の速さが変わります。2種類の速さを選ぶことができます。ボタンを押すたびに次のように表示が切り替わります。

再生方向

2 ▮▶ ←→ 1 ▮▶

逆方向（DVDビデオのみ）

2 ◀▮ ←→ 1 ◀▮

コマ送りで見る

（CD、MP3、JPEG画像ファイルを除く）

一時停止中に再生方向は●➡/II▶（ステップ）、逆方向（DVDビデオ、DVD-R、DVD-RWのみ）は⬅●/◀II（ステップ）を押します。▷を押すと通常の再生に戻ります。

ご注意

- DVD-R（VRモード）、DVD-RW（VRモード）では、静止画はサーチできません。

タイトルやチャプター、トラック、シーンなどを使って検索する

DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD

タイトル/チャプターでDVDを、トラック/インデックス/シーンでCD、ビデオCD、データCD、データDVDを検索できます。
タイトルやトラックなどには、ディスク上で番号がつけられているので、その番号を選んで頭出しします。また、タイトルの経過時間をタイムコードで入力して場面を探すこともできます（タイムサーチ）。

1 DISPLAYボタンを押す（データCDまたはデータDVDのJPEG画像ファイルを再生しているときはDISPLAYボタンを2回押す）。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓を使って、検索項目を選ぶ。

[タイトル]、[トラック]、[シーン]

[チャプター]、[インデックス]

[時間/テキスト]

タイムコードを入力して場面を探すときは、[時間/テキスト]を選んでください。

[トラック]

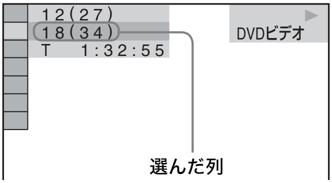
[アルバム]

[ファイル]

ディスク再生—いろいろな機能

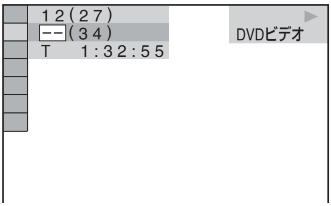
次のページへつづく

例）[チャプター]を選んだとき
[**（**）]が選ばれます（**は任意の数字)。カッコ内の数字はタイトル、チャプター、トラック、インデックス、シーン、アルバムまたはファイルの総数です。



3 ENTERボタンを押す。

[**（**）]が[--（**）]に変わります。



4 ↑/↓または数字ボタンでタイトル、チャプター、トラック、インデックス、シーンなどの番号を入力する。

間違えたときは

CLEARボタンを押して、入力しなおします。

5 ENTERボタンを押す。

選んだ番号のチャプターやインデックスなどの再生が始まります。

タイムコードを入力して場面を探すには（タイムサーチ）（DVDビデオ/DVD-VRモードのみ）

1 手順2で [時間/テキスト]を選ぶ。
[T**:**:**](現在のタイトルの経過時間)が選ばれます。

2 ENTERボタンを押す。
[T**:**:**]が[T--:--:--]に変わります。

3 数字ボタンでタイムコードを入力し、ENTERボタンを押す。
例えば、始まりから2時間10分20秒過ぎた場面を探すには、[2:10:20]と入力します。

ちょっと一言

- テレビにコントロールメニューが表示されていなくても、数字ボタンとENTERボタンを押してチャプター (DVDビデオ、DVD−R、DVD−RW)やトラック(ビデオCD、CD)を探すことができます。

ご注意

- DVD+RW/DVD+Rではタイムコードを使って検索することはできません。

シーンで検索する

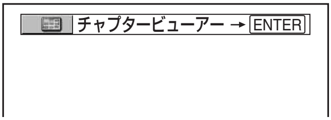
（ピクチャーナビ）

DVD-V　VIDEO CD

画面を9分割して、見たいシーンをすばやく検索できます。

1　再生しているときに、PICTURE NAVIボタンを押す。

テレビに、次の画面が表示されます。

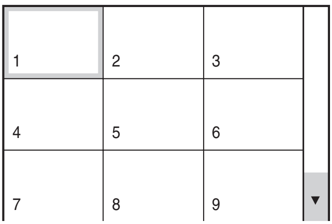


2　PICTURE NAVIボタンを繰り返し押して、項目を選びます。

- [タイトルビューアー]（DVDビデオのみ）
- [チャプタービューアー]（DVDビデオのみ）
- [トラックビューアー]（ビデオCD、スーパー VCDのみ）

3　ENTERボタンを押す。

次のようにそれぞれのタイトル、チャプター、またはトラックの最初のシーンが表示されます。



4　←/↑/↓/→を使って、タイトル、チャプター、トラックを選び、ENTERボタンを押す。

選んだシーンから再生が始まります。

設定の途中で通常の再生に戻るには

RETURNボタンまたはDISPLAYボタンを押します。

ご注意

- ディスクによっては、操作を禁止している場合があります。

再生を止めたところから再生する

（リジューム再生）

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

■を押し再生を止めたとき、本体の表示窓に「RESUME」が表示され、本機は再生を止めたところを記憶します。ディスクを取り出さないかぎり、I/⏻電源ボタンを押して本機をスタンバイモードにしてもリジューム再生できます。

1 ディスクの再生中、■を押して、再生を止める。

本体の表示窓に「RESUME」と表示されます。「RESUME」が表示されないときはリジューム再生はできません。

2 ▷を押す。

手順1で再生を止めたところから、再生が始まります。

ご注意

- 再生を止めたところによっては、リジューム再生の始まりがずれることがあります。
- 次の場合、再生を止めたところの記録は消え、リジューム再生できません。
  - ー ディスクを取り出したとき
  - ー 本機がスタンバイモードになったとき（データCD、データDVDのみ）
  - ー 設定画面で設定を変更したとき
  - ー FUNCTIONボタンを押してファンクションを変えたとき
  - ー 電源コードをコンセントから抜いたとき
- VRモードのDVD-R/DVD-RW、ビデオCD、CD、データCD、データDVDは現在再生しているディスクのみ再生を止めたところを記録します。
- プログラム再生またはシャッフル再生のときは、リジューム再生できません。
- ディスクによってはリジューム再生できません。

ちょっと一言

- ディスクを最初から再生したいときは、■を2回押してから、▷を押します。

複数枚のディスクをリジューム再生する（つづき再生機能）

（DVDビデオ、ビデオCDのみ）

本機は、途中で再生をやめたディスクを取り出し、次にまた再生するときに続きから再生できるように、40枚まで記録することができます。41枚目を記録した場合、最初の1枚目の記憶が消去されます。
この機能を使うには、[視聴設定]の[つづき再生機能]を[入]にしてください。詳しくは「つづき再生機能（DVDビデオ、ビデオCDのみ）」（77ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

- ディスクを最初から再生したいときは、■を2回押してから、▷を押します。

ご注意

- [視聴設定]の[つづき再生機能]が[切]の場合（77ページ）、FUNCTIONボタンを押してファンクションを変えたときは再生を止めたところの記録は消えます。

好きな順に再生する
（プログラム再生）

VIDEO CD　CD

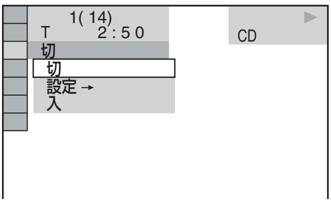
ディスクの中のトラックを選んで好きな順に再生できます。最大99のトラックを、再生したい順にプログラムできます。

1　DISPLAYボタンを押す。

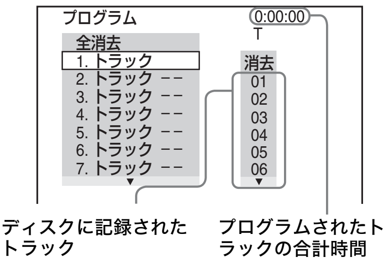
テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2　↑/↓ボタンを使って [プログラム]を選び、ENTERボタンを押す。

[プログラム]の項目が表示されます。

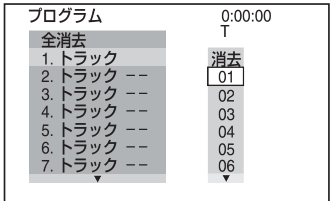


3　↑/↓ボタンを使って[設定→]を選び、ENTERボタンを押す。



4　→を押す。

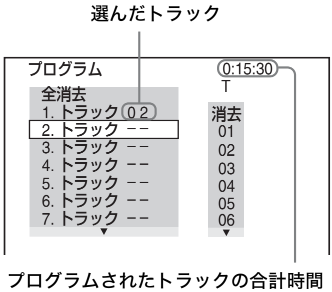
カーソルがトラックの列[T]（例では[01]）に移動します。



5　プログラムしたいトラックを選ぶ。

例えば、トラック[02]を選びます。

↑/↓を使って[T]の下にある[02]を選び、ENTERボタンを押します。



6　続けて再生するトラックを設定したいときは、手順4、5を繰り返す。

プログラムしたトラックは、選んだ順に表示されます。

7　▷を押してプログラム再生を始めます。

プログラム再生が始まります。プログラム再生が終わったとき、▷を押すと同じプログラムを再生します。

通常の再生に戻るには

CLEARボタンを押すか、手順3で「切」を選んでください。同じプログラムを再生したいときは、手順3で[入]を選んだ後、ENTERボタンを押します。

次のページへつづく

コントロールメニュー画面表示を消すには

コントロールメニュー画面表示が消えるまで、繰り返しDISPLAYボタンを押します。

プログラムした内容を変えるには

1 「好きな順に再生する(プログラム再生)」の手順1から3を行う。
2 ↑/↓を使って、変えたい、またはキャンセルしたいトラックナンバーを選ぶ。プログラムしたトラックを消去したい場合は、CLEARボタンを押す。
3 新しいプログラムを設定するには手順5を行う。プログラムをキャンセルするには[消去]を選び、ENTERボタンを押す。

プログラムしたすべての内容をキャンセルするには

1 「好きな順に再生する(プログラム再生)」の手順1から3を行う。
2 ↑ を押して、[全消去]を選ぶ。
3 ENTERボタンを押す。

順不同に再生する

(シャッフル再生)

VIDEO CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

ディスク上に記録されたトラックの順番に関係なく、本機がランダム（無作為）に順番を選んで再生します。再生する順番は、シャッフル再生するたびに変わります。

ご注意

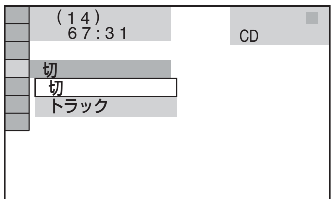
- MP3再生中は同じ曲が続けて再生されることもあります。

1 ディスクを再生しているときは、再生を止めてからDISPLAYボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓を使って [シャッフル]を選び、ENTERボタンを押す。

[シャッフル]の項目が表示されます。



3 ↑/↓を使ってシャッフル再生したい項目を選ぶ。

■ビデオCD、またはCDを再生しているとき

- [切]：シャッフル再生をオフにします。
- [トラック]：ディスクのトラックをシャッフル再生します。

■プログラム再生を使っているとき
- [切]：シャッフル再生をオフにします。
- [入]：プログラム再生の中でシャッフル再生されます。

■データCD、またはデータDVDを再生しているとき
- [切]：シャッフル再生をオフにします。
- [入]：アルバム再生の中でMP3音声トラックをシャッフル再生されます。アルバムが選択されていない場合、最初のアルバムがシャッフル再生されます。

ご注意
- すでに再生された曲もシャッフル再生されます。

4 **ENTERボタンを押す。**
シャッフル再生が始まります。

通常の再生に戻るには
CLEARボタンを押すか、または手順3で[切]を選びます。

コントロールメニュー画面表示を消すには
コントロールメニュー画面表示が消えるまで、繰り返しDISPLAYボタンを押します。

ご注意
- シャッフル再生は、PBC再生のビデオCDおよびスーパー VCDでは使用できません。

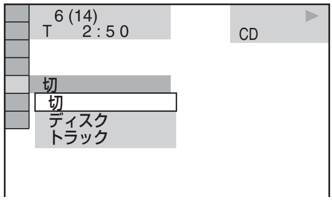
繰り返し再生する
(リピート再生)

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

ディスクのすべて、または1つのタイトル/チャプター/トラック/アルバムを繰り返し再生できます。
シャッフル再生やプログラム再生と組み合わせて使うこともできます。

1 **ディスクの再生中にDISPLAYボタンを押す。**
テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 **↑/↓ を使って[リピート]を選び、ENTERボタンを押す。**
[リピート]の項目が表示されます。



3 **↑/↓を使ってリピート再生したい種類を選ぶ。**
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

■DVDビデオまたはDVD-VRのとき
- [切]：リピート再生をオフにします。
- [ディスク]：ディスクのすべてのタイトルを繰り返し再生します。
- [タイトル]：再生中のタイトルを繰り返し再生します。

次のページへつづく

• [チャプター]：再生中のチャプターを繰り返し再生します。

■ビデオCD、またはCDのとき

• [切]：リピート再生をオフにします。
• [ディスク]：ディスクのすべてのトラックを繰り返し再生します。
• [トラック]：再生中のトラックを繰り返し再生します。

■データCD、またはデータDVDのとき

• [切]：リピート再生をオフにします。
• [ディスク]：ディスクのすべてのアルバムを繰り返し再生します。
• [アルバム]：再生中のアルバムを繰り返し再生します。
• [トラック]（MP3音声トラックのみ）：再生中のトラックを繰り返し再生します。

■プログラム再生を使っているとき

• [切]：リピート再生をオフにします。
• [入]：プログラム再生の中でリピート再生されます。

4 **ENTERボタンを押す。**

選んだ種類でリピート再生になります。

通常の再生に戻るには

CLEARボタンを押すか、または手順3で[切]を選びます。

コントロールメニュー画面表示を消すには

コントロールメニュー画面表示が消えるまで、繰り返しDISPLAYボタンを押します。

ご注意

• リピート再生は、PBC再生のビデオCDおよびスーパー VCDでは使用できません。
• MP3音声トラックおよびJPEG画像ファイルを含むデータCDまたはデータDVDをリピート再生中、再生経過時間の表示が同じでない場合、音声が映像と一致しないこともあります。
• [映像音声選択モード]で[映像（JPEG）]を選んでいるときは、[トラック]を選択できません。

DVDに記録されているメニューを使う

DVD-V

複数のタイトル（映像や曲）が記録されているDVDを再生するときは、TOP MENUボタンで好きなタイトルを選べます。
ディスクの内容をメニューで選択できるDVDを再生するときは、再生したい項目や字幕の言語、音声の言語などをMENUボタンで選べます。

1 **TOP MENUボタンまたはMENUボタンを押す。**

ディスクに記録されたメニューがテレビに表示されます。メニューの内容はディスクによって異なります。

2 **再生または変更したい項目を←/↑/↓/→または数字ボタンで選ぶ。**

3 **ENTERボタンを押す。**

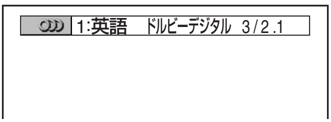
音声を切り換える

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD　CD　DATA-CD　DATA DVD

DVDビデオの中には、複数の言語（マルチランゲージ）で音声が記録されているものや、複数の音声記録方式（PCM、ドルビーデジタル、DTSなど）で録音されているものがあります。このようなDVDビデオでは、再生中に音声の言語や音声記録方式を選ぶことができます。
また、CD、ビデオCD、MP3音声トラック再生中は、左右どちらかのチャンネルの音を左右両方のスピーカーから出すことができます。カラオケのビデオCDなどで、伴奏だけを聞くこともできます。

1 ディスクを再生中にAUDIOボタンを押す。

テレビに、次の画面が表示されます。
DVDビデオの場合



2 AUDIOボタンを繰り返し押して、お好みの音声を選ぶ。

■DVDビデオのとき
選べる言語はDVDビデオによって異なります。
4桁の数字が表示されたときは、「言語コード一覧表」（92ページ）を参照してください。同じ言語が2つ以上表示されたときは、音声記録方式(音声チャンネル数など)が異なります。

■DVD-VRのとき
ディスクに記録されている音声トラックの種類が表示されます。
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。
例：
- [1:主]：主音声
- [1:副]：副音声
- [1:主+副]：主音声+副音声
- [2:主]
- [2:副]
- [2:主+副]

ご注意
- ディスクに１つの音声しか記録されていないときは、[2:主]、[2:副]、または[2:主+副]は表示されません。

■ビデオCD、CD、データCD（MP3音声トラック）、データDVD（MP3音声トラック）のとき
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。
- [ステレオ]：通常のステレオ再生
- [1/L]：左チャンネルの音(モノラル)
- [2/R]：右チャンネルの音(モノラル)

■スーパー VCDのとき
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。
- [1：ステレオ]：音声トラック１のステレオ再生
- [1：1/L]：音声トラック1の左チャンネルの音（モノラル）
- [1：2/R]：音声トラック１の右チャンネルの音（モノラル）
- [2：ステレオ]：音声トラック2のステレオ再生
- [2：1/L]：音声トラック2の左チャンネルの音（モノラル）
- [2：2/R]：音声トラック2の右チャンネルの音（モノラル）

ご注意
- [2：ステレオ]、[2：1/L]、または[2：2/R]を選んでいるときは、音声トラック2が記録されていないスーパー VCDを再生しても音が出ません。

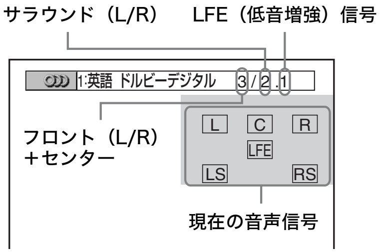
次のページへつづく

音声信号の種類を調べるには（DVDビデオのみ）

ディスクの再生中にAUDIOボタンを繰り返し押すと、テレビ画面に現在の音声信号の種類（PCM、ドルビーデジタル、DTSなど）が表示されます。

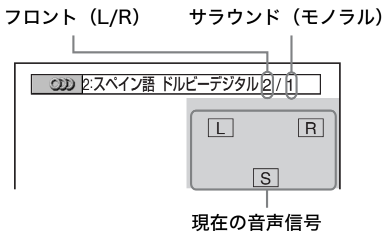
例：

ドルビーデジタル5.1chの場合



例：

ドルビーデジタル3chの場合



音声信号について

ディスクに記録されている音声信号は次のような音声チャンネルを持っています。チャンネルの音がそれぞれのスピーカーから出ます。

- フロント（L）
- フロント（R）
- センター
- サラウンド（L）
- サラウンド（R）
- サラウンド（モノラル）：ドルビーサラウンドサウンド処理信号、またはドルビーデジタルサウンドモノラル音声信号
- LFE（低音増強）信号

DVD-R/DVD-RWの[オリジナル]または[プレイリスト]を選んで再生する

DVD-VR

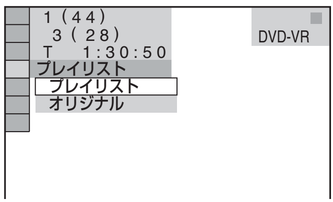
VRモードのDVD-R、またはDVD-RWの中には、2種類の再生方法が選べる場合があります。ディスクに実際に記録される[オリジナル]のタイトルと、DVDレコーダー等で編集して作成される[プレイリスト]という2種類のタイトルがあります。いずれかを選んで再生できます。

1 ディスクを再生しているときは、再生を止めてから DISPLAYボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓を使って [オリジナル/プレイリスト]を選び、ENTERボタンを押す。

[オリジナル/プレイリスト]の項目が表示されます。



3 ↑/↓を使って項目を選ぶ。

- [プレイリスト]：オリジナルをもとに編集して作られたタイトルを再生します。

• [オリジナル]：記録された元のタイトルを再生します。

4 ENTERボタンを押す。

ディスクの情報を見る

DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD

本体の表示窓で経過時間や残り時間を見る

本体の表示窓で、残り時間や、DVDの総タイトル数、ビデオCD、CDまたはMP3音声トラックなどの情報を見ることができます(95ページ)。

DISPLAYボタンを押す。

ディスクの再生中に、DISPLAYボタンを押すたびに、本体の表示窓は①→②→...→①→...のように切り替わります。

数秒後に表示窓の表示が消える項目もあります。

DVDビデオまたはDVD-R/DVD-RW再生のとき

① 現在のタイトル番号と経過時間
② 現在のタイトルの残り時間
③ 現在のチャプター番号と経過時間
④ 現在のチャプターの残り時間
⑤ ディスクの名前
⑥ 現在のタイトル番号とチャプター番号

ビデオCD（PBC再生中以外）またはCD再生のとき

① 現在のトラック番号と経過時間
② 現在のトラックの残り時間
③ ディスクの経過時間
④ ディスクの残り時間
⑤ ディスクの名前
⑥ 現在のトラック番号とインデックス* 番号

* ビデオCDのみ。

次のページへつづく

■ データCD（MP3音声トラック）、またはデータDVD（MP3音声トラック）再生のとき

① 現在のトラック番号と経過時間
② トラックの名前（ファイル名）

ちょっと一言

- ビデオCDをPBC再生しているときは、経過時間が表示されます。

ご注意

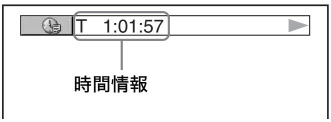
- 本機で表示されるDVDやCDのテキストは一次レベル（ディスクの名前やタイトル）のみになります。
- MP3音声トラックの名前を表示できないときは、本体の表示窓に「*」が表示されます。
- テキストによっては、ディスクやトラックの名前が表示されない場合があります。
- MP3音声トラックの経過時間は正確に表示されない場合があります。

テレビで経過時間や残り時間を見る

現在のタイトル、チャプター、トラックの経過時間や残り時間、ディスクの経過時間、残り時間を見ることができます。

1 ディスクの再生中にDISPLAYボタンを押す。

テレビに、次の画面が表示されます。



2 DISPLAYボタンを繰り返し押して、時間情報を切り替えます。

ディスクの種類によって、時間情報の表示が切り替わります。

■ DVDビデオまたはDVD-R/DVD-RW再生のとき

- T **:**:**（時:分:秒）
  現在のタイトルの経過時間
- T－**:**:**
  現在のタイトルの残り時間
- C **:**:**
  現在のチャプターの経過時間
- C－**:**:**
  現在のチャプターの残り時間

■ ビデオCD（PBC再生）再生のとき

- **:**（分:秒）
  現在のシーンの経過時間

■ ビデオCD（PBC再生以外）、またはCD再生のとき

- T **:**（分:秒）
  現在のトラックの経過時間
- T－**:**
  現在のトラックの残り時間
- D **:**
  現在のディスクの経過時間
- D－**:**
  現在のディスクの残り時間

■ データCD（MP3音声トラック）、またはデータDVD（MP3音声トラック）再生のとき

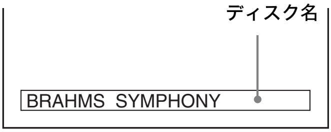
- T **:**（分:秒）
  現在のトラックの経過時間

ご注意

- アルファベット文字と数字のみ表示されます。
- 再生されているディスクの種類によっては、限られた文字数までしか表示されない場合があります。また、ディスクによってはすべての文字が表示されない場合があります。

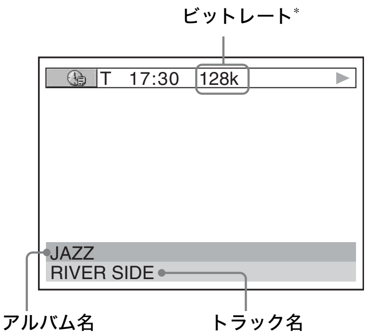
テレビでDVD、CDのテキスト情報を見る

「テレビで経過時間や残り時間を見る」（48ページ）の手順2でDISPLAYボタンを繰り返し押して、DVD、CDに記録されたディスク名をテレビに表示します。
ディスク名を変更することはできません。もしディスク名が記録されていないときは、テレビに「NO TEXT」と表示されます。



テレビでデータCDやデータDVD（MP3音声トラック）のテキスト情報を見る

データCDやデータDVDのMP3音声トラックを再生中にDISPLAYボタンを押すと、テレビにアルバム名やトラック名、音声のビットレート（1秒あたりのデータ量）を表示できます。



＊ データCDやデータDVDのMP3音声トラックを再生しているときに表示されます。

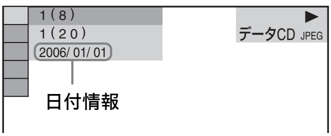
テレビで日付情報を見る

（JPEG画像ファイルのみ）

Exif*タグ情報が記録されているJPEG画像ファイルを再生しているときに、日付情報をテレビで見ることができます。

再生中にDISPLAYボタンを2回押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。



＊ Exchangeable Image File Formatは日本電子工業振興会が制定したデジタルカメラ用画像ファイルフォーマット規格です。

ちょっと一言

- 日付情報は[年、月、日]の順で表示されます。

アングルを切り換える

DVD-V

複数のアングル（マルチアングル）がディスクに記録されているとき、好きなアングルに切り換えることができます。

ディスクの再生中にANGLEボタンを押す。

ANGLEボタンを押すたびに、アングルが変わります。

ご注意

- ディスクによっては複数のアングルが記録されていても、切り換えを禁止している場合があります。

字幕を表示する

DVD-V　DVD-VR

字幕が記録されているディスクは、再生中に字幕を表示したり消したりできます。複数の言語（マルチランゲージ）で字幕が記録されているときは、字幕を切り換えることができます。

ディスクの再生中にSUBTITLEボタンを押す。

SUBTITLEボタンを押すたびに、字幕の言語が変わります。

ご注意

- ディスクによっては複数の言語で字幕が記録されていても、字幕表示したり消したりすることや、切り換えを禁止している場合があります。

音声と映像のずれを調節する

(AV/SYNC)

DVD-V　DVD-VR　VIDEO CD

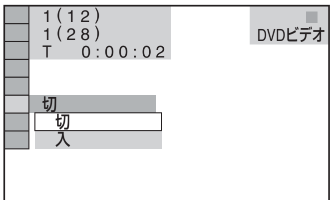
つないだテレビによっては、音声と映像がずれることがあります。そのようなときは、ずれを調節することができます。

1 ディスクを再生しているときは、再生を止めてからDISPLAYボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ を使って[AV/SYNC]を選び、ENTERボタンを押す。

[AV/SYNC]の項目が表示されます。



3 ↑/↓を使って、項目を選ぶ。

お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

- 「切」：調節しない。
- 「入」：音声と映像のずれを調節する。

ご注意

- 入力信号によっては、この機能が使えない場合があります。

MP3音声トラックとJPEG画像ファイルについて

DATA-CD DATA DVD

MP3音声トラックとJPEG画像ファイルとは

MP3音声トラックはISO/IEC MPEG準拠の音声圧縮技術で記録された音声データです。JPEG画像ファイルは画像圧縮技術で記録された画像データです。

本機で再生できるディスク

データCD（CD-ROM、CD-R、CD-RW）やデータDVD（DVD-R、DVD-RW、DVD+R、DVD+RW、DVD-ROM）に記録されているMP3（MPEG 1 Audio Layer 3）音声トラックまたはJPEG画像ファイルを再生できます。
データCDはISO9660のレベル1/レベル2、それらの拡張フォーマット/Joliet、データDVDはUDF（Universal Disk Format）準拠で記録されたものが再生可能です。
記録方式について詳しくはCD-R/CD-RWドライブ、DVD-R/DVD-RWドライブまたは書き込み用ソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 本機では、パケットライト方式で作成されたデータCDやデータDVDを再生できないことがあります。

本機で再生できるMP3音声トラックとJPEG画像ファイルについて

本機では次のMP3音声トラックとJPEG画像ファイルを再生できます。

- 拡張子が「.MP3」（MP3音声トラック）、「.JPG」/「.JPEG」（JPEG画像ファイル）のデータ
- DCF*画像ファイルフォーマットに適合したデータ

* JEITA（電子情報技術産業協会）が制定した、デジタルカメラ用画像フォーマット。

ご注意

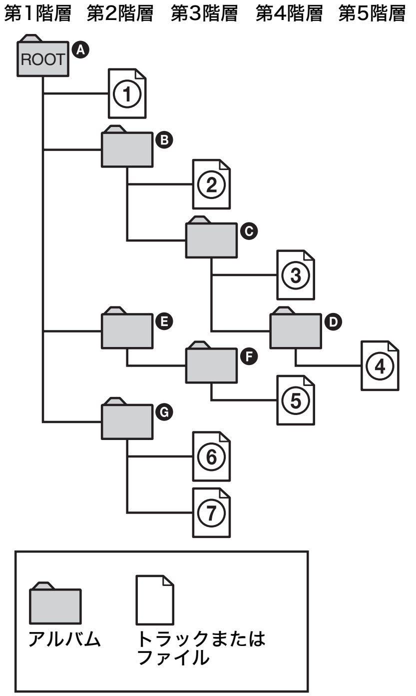
- 本機は拡張子が「.MP3」（MP3音声トラック）、「.JPG」/「.JPEG」（JPEG画像ファイル）であれば、MP3音声トラックやJPEG画像ファイルのデータではなくても再生してしまい、雑音や故障の原因となります。
- 本機はMP3PROで記録された音声には対応していません。

次のページへつづく

MP3音声トラックとJPEG画像ファイルの再生する順番について

データCDやデータDVDに記録されたMP3音声トラックとJPEG画像ファイルは次の順番で再生します。

■ ディスク内の構造について



データCD、またはデータDVDを入れて▷を押すと、図の①から⑦の順に数字のつけられたトラック（またはファイル）を再生します。選択されているアルバムの中のサブアルバム（トラック）は同じ階層の中にある他のアルバムより優先されます（例：Ⓒは Ⓓを含んでいるので、④は⑤よりも前に再生されます）。
MENUボタンを押すと、アルバムの名前リストが表示されます。アルバムの名前は以下の順に並びます。（Ⓐ→Ⓑ→Ⓒ→Ⓓ→Ⓕ→Ⓖ）
トラック（またはファイル）を含まないアルバム（例えばⒺ）は、リストに表示されません。

ちょっと一言

- ディスクにトラックやファイルを記録するときは、あらかじめトラックやファイル名の頭に数字(01、02、03など)を入れておくと、その数字の順番に再生することが出来ます。
- ディスクがたくさんの階層で構成されていると、読み込みに時間がかかります。

ご注意

- データCDやデータDVDを作成したソフトウェアによっては、イラストの順序で再生されないことがあります。
  また、アルバム数が200以上、または各アルバムのトラック数およびファイル数の合計が300以上のときは、イラストの順序で再生されないことがあります。
- 本機はディスクに記録された200番目のアルバムまで認識できます。それ以降のアルバムは再生できない場合があります。
- 次のアルバムに進むときや、他のアルバムに移動するときは再生するのに時間がかかる場合があります。
- JPEG画像ファイルの種類によっては再生できない場合があります。

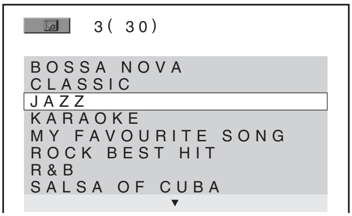
データCDやデータDVDに記録されたMP3音声トラックとJPEG画像ファイルを再生する

DATA-CD DATA DVD

MP3音声トラックまたはアルバムを選ぶ

1 データCD、またはデータDVDを本機に入れる。

テレビに、データCDまたはデータDVDに記録されたアルバムのリストが表示されます。
再生されているアルバムのタイトルは影になっています。



アルバムがない場合は「ROOT」と表示します。

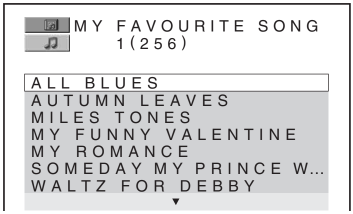
2 ↑/↓を使って再生したいアルバムを選ぶ。

■ アルバムを再生するには

▷を押して選んだアルバムを再生します。

■ トラックを再生するには

ENTERを押します。
テレビに、選んだアルバムの中のトラックのリストが表示されます。



↑/↓ を使って再生したいトラックを選び、ENTERボタンを押す。
選んだトラックを再生します。MENUボタンを押してトラックリストの表示を消すこともできます。
MENUボタンを再び押すとアルバムリストが表示されます。

再生を止めるには

■を押します。

次または前のMP3音声トラックを再生するには

再生中に⏮または⏭を押します。再生中のアルバムの最後のトラックで⏭を押すと、次のアルバムの最初のトラックを選べます。
⏮で前のアルバムのトラックに戻ることはできません。前のアルバムに戻るには、アルバム一覧からアルバムを選びます。

前の画面表示に戻るには

↩ RETURNを押します。

画面表示を消すには

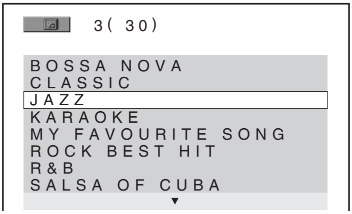
MENUボタンを押します。

次のページへつづく

JPEG画像ファイルまたはアルバムを選ぶ

1 データCDまたはデータDVDを本機に入れる。

テレビに、データCDまたはデータDVDに記録されたアルバムのリストが表示されます。
再生されているアルバムのタイトルは影になっています。

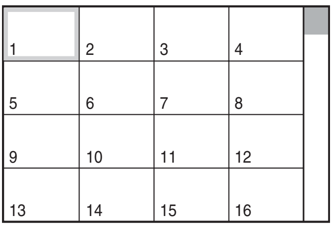


アルバムがない場合は「ROOT」と表示します。

2 ↑/↓を使って再生したいアルバムを選ぶ。

■アルバムを再生するには
▷を押して選んだアルバムを再生します。

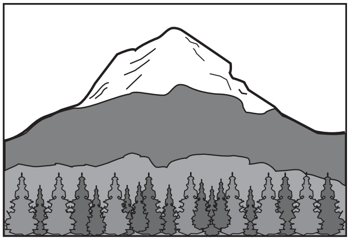
■JPEG画像ファイルを表示するには
PICTURE NAVIボタンを押します。
テレビに、選んだアルバムの中の画像が16コマのスクリーンで表示されます。



ちょっと一言

- スクロールボックスがスクリーン右側に表示されます。ほかの画像を表示するには最下段のコマを選び↓を押します。戻るには最上段のコマを選び↑を押します。

3 ←/↑/↓/→ を使って表示したい画像を選び、ENTERボタンを押す。



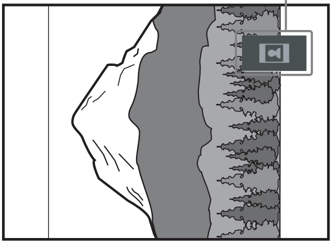
次または前のJPEG画像ファイルを表示するには

再生中に → または ← を押します。再生中のアルバムの最後のファイルで → を押すと、次のアルバムの最初のファイルを選べます。
← で前のアルバムのファイルに戻ることはできません。前のアルバムに戻るには、アルバム一覧からアルバムを選びます。

JPEG画像ファイルを回転するには

JPEG画像ファイルが画面に表示されているときに、画像を90度回転させることができます。
画像が表示されているときに↑/↓ を押してください。↑ を押すたびごとに、画像は反時計回りに90度ずつ回転します。

↑ を1度押したときの例：



通常の画面に戻るにはCLEARボタンを押します。

再生を止めるには

■を押します。

JPEG画像ファイルを音声つきでスライドショーとして楽しむ

DATA-CD DATA DVD

JPEG画像を音声つきでスライドショー*として再生するには、データCDまたはデータDVDの同じアルバムの中にMP3音声トラックとJPEG画像ファイルをあらかじめ一緒に入れてください。再生時に以下の[自動]設定を選んでください。

* スライドショーとは、テレビに複数のJPEG画像ファイルを自動的に切り換えながら表示する機能です。

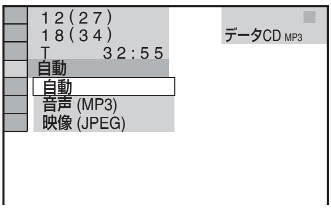
1 **データCDまたはデータDVDを本機に入れる。**

2 **DISPLAYボタンを押す。**

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

3 **↑/↓を使って [音声映像選択モード]を選び、ENTERボタンを押す。**

[音声映像選択モード]の項目が表示されます。



次のページへつづく

4 ↑/↓を使って設定を選び、ENTERボタンを押す。

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- [自動]：同じアルバムの中にあるJPEG画像ファイルとMP3音声トラックをスライドショーとして再生します。
- [音声（MP3)]：MP3音声トラックのみ続けて再生します。
- [映像（JPEG)]：JPEG画像ファイルのみスライドショーとして表示します。

5 MENUボタンを押す。

テレビに、データCDまたはデータDVDに記録されたアルバムのリストが表示されます。

6 ↑/↓を使ってアルバムを選び、▷を押す。

本機は選んだアルバムの再生を始めます。

MENUボタンを押してアルバムリストを表示したり消したりすることができます。

ちょっと一言

- [自動]を選んでいるときは、1枚のアルバムの中で300のMP3音声トラックと300のJPEG画像ファイルを読み込めます。[音声（MP3)]または[映像（JPEG)]を選んでいるときは、1枚のアルバムの中で600のMP3音声トラック、または600のJPEG画像ファイルを読み込めます。設定にかかわらず、最大200アルバムまで読み込めます。

ご注意

- [音声映像選択モード]にて、MP3音声トラックのみ記録されているディスクを[映像（JPEG）]にしても、またJPEG画像ファイルのみ記録されているディスクの設定を[音声（MP3）]にしても、[音声映像選択モード]は変更されない場合があります。
- [音声（MP3)]を選んでいるときは、PICTURE NAVIボタンは使えません。
- 大容量のMP３音声トラックとJPEG画像ファイルを同時に再生しようとすると、音飛びする場合があります。ファイルを作るときには、MP3音声トラックのビットレートを128kbps以下に設定されることをおすすめします。それでも音飛びする場合は、JPEG画像ファイルのデータを小さくしてください。

スライドショーの表示間隔を変えるには

（JPEG画像ファイルのみ）

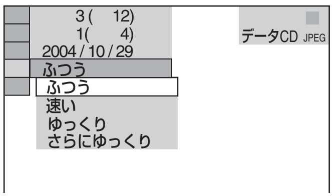
JPEG画像ファイルをスライドショーを使って表示するときに、画像の表示間隔を変えることができます。

1 DISPLAYボタンを２回押す。

テレビに、JPEG画像ファイルのコントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓を使って [スライド送り時間]を選び、ENTERボタンを押す。

[スライド送り時間]の項目が表示されます。



3 ↑/↓を使って設定を選ぶ。

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- [ふつう]：6〜9秒の表示間隔です。
- [速い]：[ふつう]よりも表示間隔が短くなります。
- [ゆっくり]：[ふつう]よりも表示間隔が長くなります。
- [さらにゆっくり]：[ゆっくり]よりも表示間隔が長くなります。

4 ENTERボタンを押す。

選んだ設定が有効になります。

ご注意

- JPEG画像ファイルによっては、選んだ表示間隔よりも長く時間がかかる場合があります。特に300万ピクセル以上のプログレッシブJPEG画像ファイルやJPEG画像ファイルを表示する場合に長い時間がかかります。

スライドショーの効果を選ぶ（JPEG画像ファイルのみ）

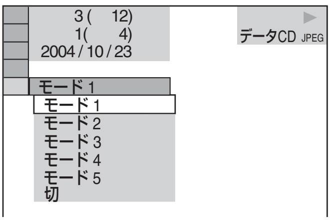
JPEG画像ファイルをスライドショーで表示するときの効果を選べます。

1 DISPLAYボタンを２回押す。

テレビに、JPEG画像ファイルのコントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓を使って [スライド効果]を選び、ENTERボタンを押す。

[スライド効果]の項目が表示されます。



3 ↑/↓を使って設定を選ぶ。

お買い上げ時の設定は下線の項目です。

- <u>[モード1]</u>：画像が上から下に向かって表示されます。
- [モード2]：画像が左から右に向かって表示されます。
- [モード3]：画像が画面中央から外側に向かって表示されます。
- [モード4]：ランダムに選ばれたスライド効果が適用されます。
- [モード5]：次の画像が前の画像に重なって表示されます。
- [切]：スライド効果を使いません。

4 ENTERボタンを押す。

選んだ設定が有効になります。

プレイバックコントロール機能（Ver. 2.0）を使う

（PBC再生）

VIDEO CD

PBC（Playback Control）機能を使って、対話型の操作や検索などができます。
PBC再生とは、テレビに表示される選択用のメニューにしたがってビデオCDの再生を進めていくことです。

1 PBC対応ビデオCDを再生する。

テレビに、選択用のメニュー画面が表示されます。

2 メニュー画面で行いたい（再生したい）項目の番号を数字ボタンで選ぶ。

3 ENTERボタンを押す。

4 テレビに表示される選択用のメニュー画面などにしたがって、操作する。

操作の方法はディスクによって異なることがありますので、ディスク付属の説明書もあわせてご覧ください。

選択用のメニュー画面に戻るには

RETURNボタンを押します。

ご注意

- ディスクによっては手順3でENTERボタンを押すことを「選択ボタンを押す」と表示するものがあります。そのときは▷を押してください。

ちょっと一言

- PBC機能を使わないで再生するときは、停止中、⏮や⏭、または数字ボタンを押して再生したいトラックを選んでから、▷またはENTERボタンを押します。通常の再生（トラック番号順に再生）が始まります。このとき、選択用のメニューなどの静止画は再生できません。
PBC再生に戻すには、■を押して再生を止めたあと、もう1度■を押してから▷を押して再生を始めます。

ラジオ

放送局を登録する（プリセット）

FM局を20局とAM局を10局、合わせて30局登録できます。
受信を始める前に、音量を最小にしてください。

1　FUNCTIONボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「TUNER FM」または「TUNER AM」を表示させる。

2　TUNING＋/－ボタンを押し続け、本体の表示窓に「AUTO」と表示され自動選局が始まったら離す。

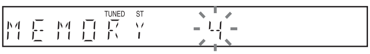
周波数表示が変わっていき、放送局を受信すると、選局が自動的に止まります。本体の表示窓に「TUNED」、「ST」（ステレオプログラムのとき）が点灯します。

3　MENUボタンを押す。

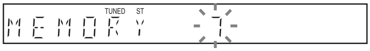
4　↑/↓を繰り返し使って、「MEMORY」を本体の表示窓に表示させる。

5　ENTERボタンを押す。

プリセット番号が本体の表示窓に表示されます。



6　↑/↓を使ってプリセット番号を選ぶ。



7　ENTERボタンを押す。

放送局が登録されます。



8　手順1～7を繰り返して、他の放送局を登録する。

プリセット番号を変えるには

手順1から操作をします。

ラジオを聞く

先に「放送局を登録する（プリセット）」で放送局を登録しておいてください。

1　FUNCTIONボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「TUNER FM」または「TUNER AM」を表示させる。

最後に受信した放送局が受信されます。

2　PRESET＋ボタンまたはPRESET－ボタンを繰り返し押して、登録した放送局の中から聞きたい放送局を選ぶ。

ボタンを押すごとに登録した放送局を1局ずつ探していきます。

3　VOLUME＋/－ボタンを押して、音量を調節する。

次のページへつづく

ラジオを消す

I/⏻電源ボタンを押します。

登録していない放送局を聞く

手順2で手動または自動で受信します。
手動受信は、リモコンのTUNING＋または－を繰り返し押します。
自動受信は、リモコンのTUNING＋または－を押し続けます。自動受信を止めるときはTUNING＋または－を押します。

周波数を知っている放送局を聞くには

手順2でダイレクトチューニング機能を使います。

1 D.TUNINGボタンを押す。
2 数字ボタンを使って、聞きたい放送局の周波数を選ぶ。
3 ENTERボタンを押す。

ちょっと一言

- FM放送の受信状態が良くないときは、MENUボタンを押し、↑/↓で「FM MODE」を選び、ENTERボタンを押します。それから、↑/↓で「MONO」を選び、ENTERボタンを押します。モノラルになりますが聞きやすくなります。ステレオに戻すには「STEREO」を選びます。
- 受信状態を良くするには、付属のアンテナの向きを変えてみてください。

登録した放送局に名前を付ける

登録した放送局に名前を付けることができます。これらの名前は、放送局が選択されたときに本体の表示窓に表示されます（「XYZ」など）。
それぞれの登録した局には、ひとつの名前しか登録できません。
文字は10文字まで入力できます。

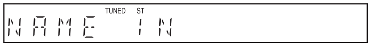
1 FUNCTIONボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「TUNER FM」または「TUNER AM」を表示させる。

最後に受信した放送局が受信されます。

2 PRESET＋ボタンまたはPRESET－ボタンを繰り返し押して、名前を付けたい放送局を受信する。

3 MENUボタンを押す。

4 ↑/↓を使って本体の表示窓に「NAME IN」を表示させる。



5 ENTERボタンを押す。

6 カーソルボタンを使って名前を付ける。

↑/↓で文字を選び、→を押してカーソルを次へ動かします。文字、数字、記号を入力することができます。

間違えて入力してしまったら

変更したい文字が点滅するまで、繰り返し←または→を押し、↑/↓で正しい文字を選びます。文字を消すには、←/→を繰り返し押して消したい文字を点滅させ、CLEARボタンを押します。

7 ENTERボタンを押す。

本体の表示窓に「COMPLETE」が表示され、放送局の名前が登録されます。

本体の表示窓で放送局の名前や周波数を見る

本体の表示窓に放送局名が表示されているとき、下記の操作で周波数を表示させることができます。

DISPLAYボタンを押す。

DISPLAYボタンを押すたびに、本体の表示窓は次のように切り替わります。

① 放送局名*

② 周波数**

* 放送局を登録して、名前をつけていなければ表示されません（60 ページ）。

** 数秒経過後に放送局名表示に戻ります。

付属のリモコンでテレビを操作する

本機のリモコンでお手持ちのソニー製テレビの操作ができます。

テレビの操作をする

以下のボタンでテレビの操作ができます。

押すボタン	できること
TV I/⏻	テレビの電源を入/切する。
TV/VIDEO	テレビの入力を切り換える。
TV VOL+/-	テレビの音量を調節する。
TV CH+/-	テレビのチャンネルを選ぶ。
TVボタンを押しながら数字ボタンを押す	テレビのチャンネルを選ぶ。

ちょっと一言

- テレビの種類によっては以下の操作が可能なものがあります。
  2桁の数字を入力するときには-/--を押したあとに数字を入力します。たとえば、25と入力したいときは-/--，2，5と入力します。
  詳しくはお使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- テレビによっては操作できないことや、一部のボタンが使えないことがあります。
- 数字ボタンでの選局は10チャンネルまでになります。

ボタン1つでDVDを見られるようにする（シアターシンク機能）

ソニー製テレビをお使いの場合、THEATRE SYNCボタンを1度押すだけで、テレビの電源が入り、本機をDVDファンクションにし、テレビの入力を切り換えることができます。

設定をする

テレビの入力（本機をつないだ入力）を登録します。

TV/VIDEOボタンを押しながら、数字ボタンを使ってテレビの入力を選ぶ。

下記の表から、本機をつないでいる入力を選びます。

TV/VIDEOボタンを押しながら ➡	押す数字ボタン	テレビの入力
	0	選びません（初期設定）
	1	ビデオ1
	2	ビデオ2
	3	ビデオ3
	4	ビデオ4
	5	ビデオ5
	6	ビデオ6
	7	ビデオ7
	8	ビデオ8
	9	コンポーネント1入力
	CLEAR	コンポーネント2入力
	AMP MENU	コンポーネント3入力

TV/VIDEOボタンを押しながら	➡	押す数字ボタン	テレビの入力
		PICTURE NAVI	コンポーネント4入力

操作をする

テレビと本機にリモコンを向けて、THEATRE SYNCボタンを押す。

機能しない場合は、下記のようにリモコンから信号を送信する時間を変えてみてください。

信号の送信時間を変える

TV CH+ボタンを押しながら、数字ボタンを使って、送信時間を選びます。
下記の表から、送信時間を選びます。

TV CH+ボタンを押しながら	➡	押す数字ボタン	送信時間
		1	0.5（初期設定）
		2	1
		3	1.5
		4	2
		5	2.5
		6	3
		7	3.5
		8	4

ご注意

- シアターシンク機能は、ソニー製テレビにのみ機能します。（ソニー製テレビでも機能しないモデルもあります。）
- テレビと本機が離れていると、機能しない場合があります。その場合は、テレビと本機を近づけて設置してください。
- リモコンから信号を送信している間は、リモコンをテレビ、本機に向けたままにしておいてください。

サウンド効果を変える

低音を強化する

低音を強化することができます。
サブウーファーのレベルを次のように変更できます。本体の表示窓には「BASS」と表示されます。

DYNAMIC BASSボタンを押す。

低域の音量を増幅させます。

サウンド効果を消すには

DYNAMIC BASSボタンをもう一度押します。

スリープタイマーを使う

音楽などを聞きながらお休みになるとき、設定した時間に本体の電源を切ることができます。
時間は10分間隔で設定することができます。

SLEEPボタンを押す。

SLEEPボタンを押すごとに、設定時間が変わり、本体の表示窓に表示されます。

SLEEP 90M（90分）
↓
SLEEP 80M（80分）
↓
⋮
SLEEP 10M（10分）
↓
SLEEP OFF

設定時間を確認する

SLEEPボタンを一度押します。

経過時間を変える

SLEEPボタンを繰り返し押して希望の設定時間に変更します。

スリープタイマー機能を解除する

SLEEPボタンを繰り返し押して、本体の表示窓に「SLEEP OFF」を表示させます。

本体表示の明るさを調節する

本体の表示窓の明るさを2段階で調節することができます。

1 AMP MENUボタンを押す。

2 ↑/↓を使って本体の表示窓に「DIMMER」を表示させてからENTERボタンまたは→を押す。

3 ↑/↓を使って本体の表示窓の明るさを選ぶ。

- 「DIMMER ON」：本体の表示窓の明るさが暗くなる。
- 「DIMMER OFF」：通常状態

4 ENTERボタンを押す。

選択項目が設定されます。

5 AMP MENUボタンを押す。

アンプメニューを終了します。

ディスクの再生を制限する

（カスタム視聴制限、視聴制限）

DVD-V　VIDEO CD　CD

本機には、ディスクの再生を制限する次の2種類の機能があります。

- カスタム視聴制限
  本機で特定のディスクを再生できないようにする。
- 視聴制限
  視聴制限つきDVDビデオの再生できるシーンを制限する。

カスタム視聴制限も視聴制限も、登録した同じ暗証番号を使って設定します。

カスタム視聴制限—設定する

登録した同じ暗証番号を使って、40枚までのディスクにカスタム視聴制限を設定することができます。41枚目のディスクを設定すると、1番最初に設定したディスクの制限が解除されます。

1　設定したいディスクを入れる。

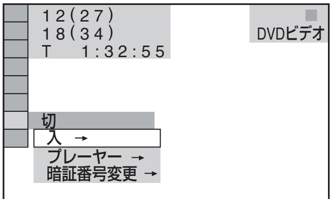
ディスクを再生しているときは、■を押して再生を止めます。

2　停止中に DISPLAYボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

3　↑/↓で [視聴制限]を選び、ENTERボタンまたは→を押す。

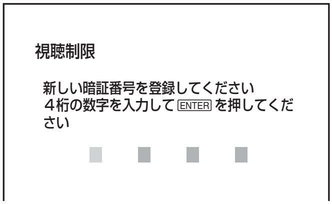
[視聴制限]が選ばれます。



4　↑/↓で[入→]を選び、ENTERボタンを押す。

■暗証番号が登録されていないとき

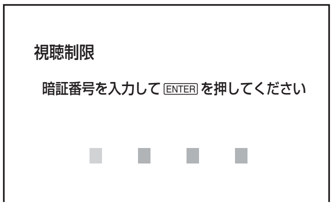
暗証番号登録の画面が表示されます。



数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、ENTERボタンを押す。
暗証番号確認の画面が出ます。

■暗証番号がすでに登録されているとき

暗証番号入力の画面が出ます。



5　数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、ENTERボタンを押す。

次のページへつづく

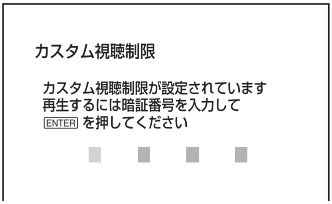
テレビに、[カスタム視聴制限を設定しました]と表示され、コントロールメニューの画面に戻ります。

カスタム視聴制限を解除するには

1 「カスタム視聴制限—設定する」の手順1から3までを行う。
2 ↑/↓ を使って、[切 →]を選び、ENTERボタンを押す。
3 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、ENTERボタンを押す。

カスタム視聴制限を設定したディスクを再生するには

1 カスタム視聴制限が設定されたディスクを入れる。
カスタム視聴制限の画面が表示されます。



2 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、ENTERボタンを押す。
再生できる状態になります。

ちょっと一言

- 暗証番号を忘れてしまったときは、カスタム視聴制限の画面で、暗証番号を入力する案内が表示されているとき、6桁の数字「199703」を数字ボタンで入力します。画面に、新しい4桁の暗証番号を入力する案内が表示されます。

視聴制限—設定する

（DVDビデオのみ）

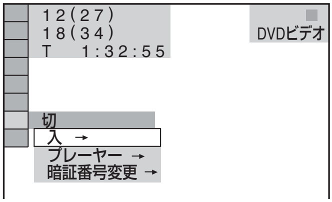
DVDビデオの中には、地域ごとに設けられたレベル（見る人の年齢など）によって視聴を制限できるものがあります。視聴制限機能を使うと、この視聴制限レベルを設定することができます。

1 ディスクを再生しているときは、再生を止めてから DISPLAYボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ を使って [視聴制限]を選び、ENTERボタンを押す。

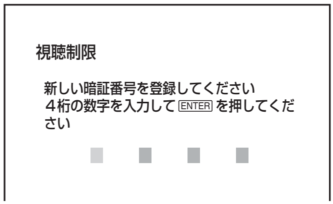
視聴制限の選択項目が表示されます。



3 ↑/↓を使って[プレーヤー →]を選び、ENTERボタンを押す。

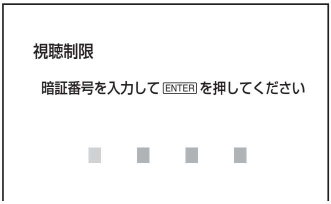
■ 暗証番号が登録されていないとき

暗証番号登録の画面が表示されます。



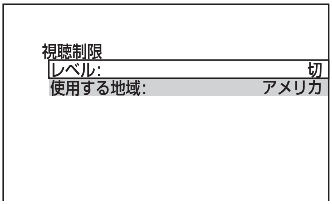
数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、ENTERボタンを押します。
暗証番号確認の画面が出ます。

■暗証番号がすでに登録されているとき
暗証番号入力の画面が出ます。



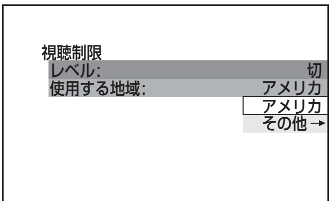
4 **数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、ENTERボタンを押す。**

視聴制限のレベル設定の画面が表示されます。



5 **↑/↓を使って[使用する地域]を選び、ENTERボタンを押す。**

[使用する地域]の選択項目が表示されます。

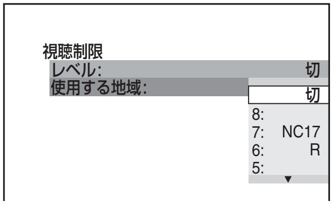


6 **↑/↓を使って視聴制限レベルの基準にする地域を選び、ENTERボタンを押す。**

[その他→]を選んだときは、93ページの表から地域コードを選び、数字ボタンで入力します。

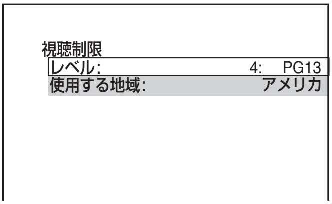
7 **↑/↓を使って[レベル]を選び、ENTERボタンを押す。**

[レベル]の選択項目が表示されます。



8 **↑/↓を使って視聴制限レベルを選び、ENTERを押す。**

視聴制限の設定が終了します。



レベルの数字が小さいほど制限が厳しくなります。

視聴制限を解除するときは

手順8で[レベル]を[切]にします。

視聴制限されたディスクを再生するには

1 ディスクを入れて、▷を押す。
視聴制限の暗証番号入力画面が表示されます。
2 数字ボタンで4桁の暗証番号を入力し、ENTERボタンを押す。
再生が始まります。

次のページへつづく

ちょっと一言

- 登録した暗証番号を忘れてしまったときは、ディスクを取り出し、「カスタム視聴制限—設定する」の手順1～3にしたがって操作します。暗証番号を入力する案内が表示されたら、6桁の数字「199703」を数字ボタンで入力してENTERボタンを押します。画面に、新しい4桁の暗証番号を登録する案内が表示されます。
  新しい暗証番号を入力して、ディスクを本機に入れなおし、▷ を押します。暗証番号入力画面が表示されるので、新しい暗証番号を入れます。

ご注意

- 視聴制限機能がないDVDは、本機で視聴制限をしても再生は制限できません。
- DVDによっては、再生中に視聴設定の変更を要求される場合があります。その場合、暗証番号を入力し、レベルを変更してください。
  つづき再生機能（40ページ）が解除されると、設定した元のレベルに戻ります。

暗証番号を変更するには

1 ディスクを再生しているときは、再生を止めてから DISPLAYボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

2 ↑/↓ を使って [視聴制限]を選び、ENTERボタンを押す。

[視聴制限]の選択項目が表示されます。

3 ↑/↓を使って[暗証番号変更→]を選び、ENTERボタンを押す。

暗証番号入力の画面が表示されます。

4 数字ボタンを使って４桁の暗証番号を入力し、ENTERボタンを押す。

5 数字ボタンを使って新しい４桁の暗証番号を入力し、ENTERボタンを押す。

6 確認のために、数字ボタンを使って暗証番号を再度入力し、ENTERボタンを押す。

暗証番号の入力を間違えたときは

ENTERボタンを押す前に←を押して、正しい数字を入力します。

スピーカー設置にあわせて最適なサラウンド環境を設定する

（スピーカー配置）

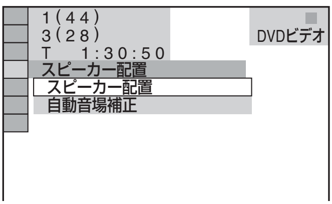
部屋の形によってはいくつかのスピーカーを設置できない場合があります。最適なサラウンドサウンドを楽しむために、あらかじめスピーカーの設置場所を決めることをおすすめします。[スピーカー配置]を行うと、部屋にあったサラウンド環境を設定できます。
スピーカーの設置位置を変更したときは、[スピーカー配置]を再度設定することをおすすめします。

1 FUNCTIONボタンを繰り返し押して、表示窓に「DVD」を表示させる。

2 停止中に DISPLAYボタンを押す。

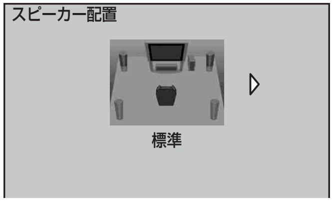
コントロールメニュー画面が表示されます。

3 ↑/↓を使って [スピーカー配置/自動音場補正]を選び、ENTERボタンを押す。



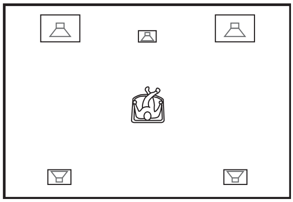
4 ↑/↓ を使って[スピーカー配置]を選び、ENTERボタンを押す。

[スピーカー配置]の設定画面が表示されます。

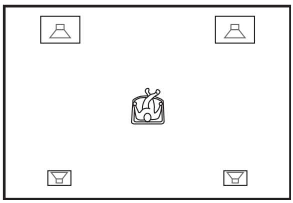


5 ←/→で設定を選ぶ。

• [標準]：標準的な位置にスピーカーを設置したとき

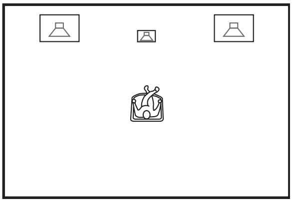


• [センターなし]：フロントスピーカーとサラウンドスピーカーのみ設置したとき

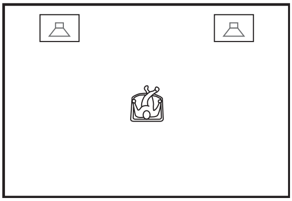


次のページへつづく

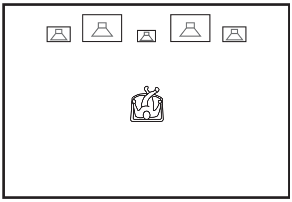
- [サラウンドなし]：センタースピーカーとフロントスピーカーのみ設置したとき



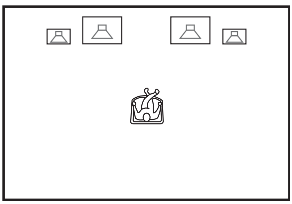
- [フロントのみ]：フロントスピーカーのみ設置したとき



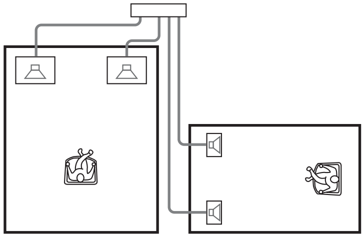
- [全フロントーセンターあり]：すべてのスピーカーを前方に設置したとき



- [全フロントーセンターなし]：フロントスピーカーとサラウンドスピーカーを前方に設置したとき



- [セカンドルーム]：フロントスピーカーとサラウンドスピーカーをそれぞれ別の部屋に設置したとき

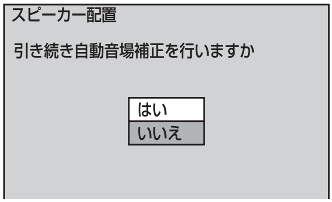


6 ENTERを押す。

選んだ設定が有効になります。

7 ↑/↓を使って [はい]または[いいえ]を選び、ENTERボタンを押す。

- [はい]：引き続き[自動音場補正]を行います。「自動でスピーカーを設定する」の手順5をご覧ください（71ページ）。
- [いいえ]：[スピーカー配置]を終了します。



ご注意

- [自動音場補正]を行う場合、測定マイクをつなぐ必要があります。
- 選択した[スピーカー配置]の設定は本体表示窓に表示されます。音が出るスピーカーが点灯するわけではありません。
- [スピーカー設定]の[接続]を変更した場合、[スピーカー配置]の設定は[標準]に戻ります。

自動でスピーカーを設定する

（自動音場補正機能）

D.C.A.C（Digital Cinema Auto Calibration）が自動的に最適なサラウンドサウンドを設定します。
スピーカーの設置位置を変更したときは(69ページ)、再度[自動音場補正]を行ってください。

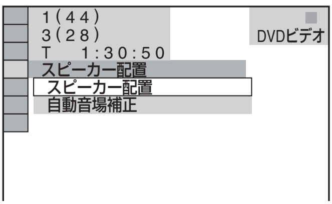
ご注意
- [自動音場補正]が始まると大きな測定音が出ます。測定中は音量の調整ができません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。

1 **FUNCTIONボタンを繰り返し押して、表示窓に「DVD」を表示させる。**

2 **停止中に DISPLAYボタンを押す。**

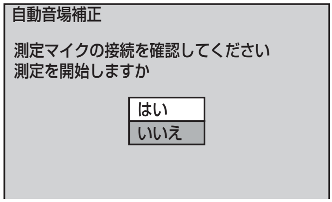
コントロールメニュー画面が表示されます。

3 **↑/↓を使って [スピーカー配置/自動音場補正]を選び、ENTERボタンを押す。**

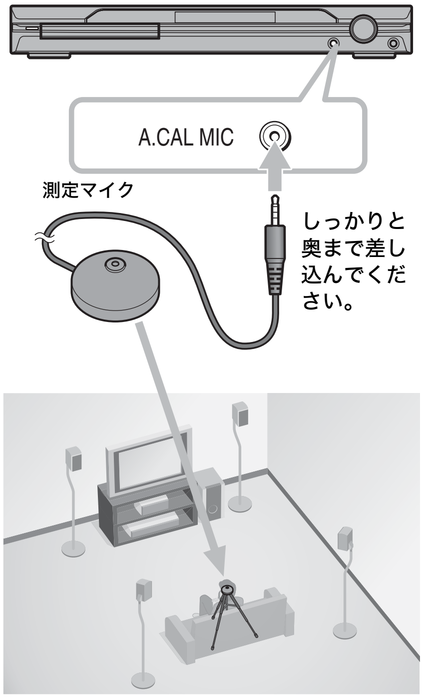


4 **↑/↓を使って[自動音場補正]を選び、ENTERボタンを押す。**

[自動音場補正]の設定画面が表示されます。



本体前面のA.CAL.MIC端子に測定マイクを接続します。マイクは耳と同じ高さになるように、市販の台や三脚を使って固定してください。各スピーカーの前面がマイクに向くようにして、スピーカーとマイクの間に障害物などがないようにしてください。測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。



次のページへつづく

5 ↑/↓を使って[はい]を選び、ENTERボタンを押す。

[自動音場補正]を開始します。



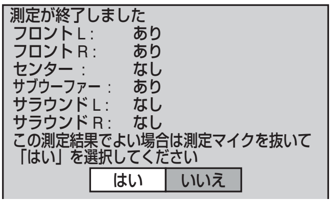
ご注意

- 測定中（約3分間）は測定の妨げにならないよう測定エリア（機器の設置エリア）の外側に出てください。
- 壁や床の反響が測定に影響する場合があります。
- エラーが表示されたら、メッセージにしたがい、[はい]を選んでください。
- エラーメッセージは以下のときに表示されます。
  - ー ヘッドホンをつないでいる。
  - ー 測定マイクが接続されていない。
  - ー 測定マイクのジャックが奥まで入っていない。
  - ー フロントスピーカー /サラウンドスピーカーが正しく接続されていない。
  - ー 測定マイク周辺がうるさい。
  - ー 測定マイクに過度の音が入る。

6 ←/↑/↓/→を使って[はい]または[いいえ]を選び、ENTERを押す。

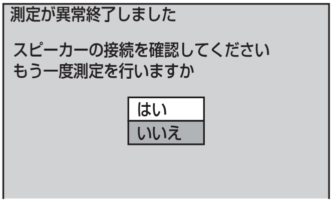
■測定の終了

測定マイクを抜き、[はい]を選びます。測定結果が反映されます。



■測定の異常終了

メッセージにしたがい[はい]を選び、もう一度測定を行います。



ちょっと一言

- 視聴位置とスピーカーの距離や、スピーカー接続を確認することできます。詳しくは78ページをご覧ください。

ご注意

- 自動音場補正中は以下の操作を行わないでください。
  - ー 電源を切る。
  - ー ボタンを押す。
  - ー 音量を変える。
  - ー ファンクションを切り換える。
  - ー ディスクを変える。
  - ー ヘッドホンをつなぐ。
  - ー 測定マイクを抜く。

設定画面を使う

DVDファンクション時、テレビに表示される設定画面を使って、画質や音声などさまざまな設定ができます。また、DVDの字幕の言語やメニューの表示言語の設定などもできます。設定画面の項目の一覧は99ページをご覧ください。

ご注意

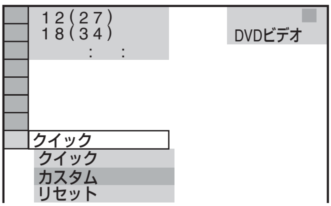
- あらかじめ再生条件が設定されているディスクがあります。その場合はディスクに記録されている情報が有効になります。

1 ディスクを再生しているときは、再生を止めてから DISPLAYボタンを押す。

テレビに、コントロールメニュー画面が表示されます。

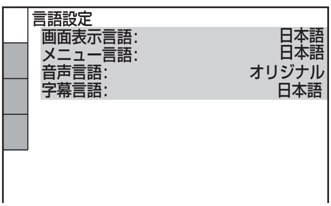
2 ↑/↓を使って [設定]を選び、ENTERボタンを押す。

[設定]の選択項目が表示されます。



3 ↑/↓を使って[カスタム]を選び、ENTERボタンを押す。

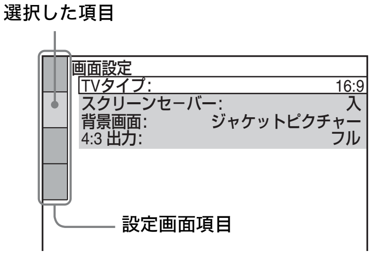
設定画面が表示されます。



4 ↑/↓を使って[言語設定]、[画面設定]、[視聴設定]、[スピーカー設定]の中から設定したい項目を選び、ENTERボタンを押す。

選択した項目の画面が表示されます。

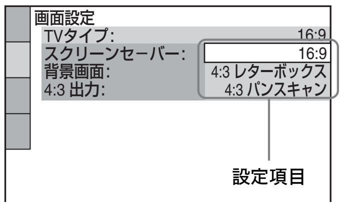
例：[画面設定]



5 ↑/↓を使って項目を選び、ENTERボタンを押す。

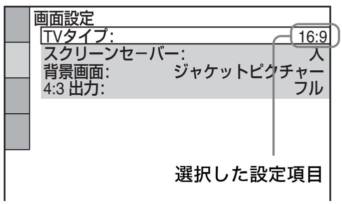
項目の設定項目が一覧表示されます。

例：[TVタイプ]



6 ↑/↓を使って設定項目を選び、ENTERボタンを押す。

設定項目が選ばれ、設定が終了します。



詳細な設定と調整

次のページへつづく

設定画面での設定をお買い上げ時の設定に戻す

1 手順2で[リセット]を選び、ENTERボタンを押す。

2 ↑/↓ を使って[はい]を選ぶ。
ここで[いいえ]を選び、このリセットの作業をやめてコントロールメニュー画面に戻ることもできます。

3 ENTERボタンを押す。
74〜81ページで説明する設定がすべてお買い上げ時の設定に戻ります。リセットが完了するのに数秒かかります。リセットしている間はI/⏻電源ボタンを押さないでください。

ご注意

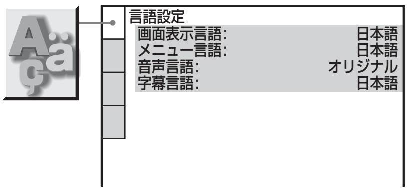
- リセットをしたあと、本体にディスクが入っていない状態で電源を入れると、メッセージが画面に表示されます。ENTERボタンを押すと、クイック設定をする画面が表示されますので、画面にしたがってクイック設定を行います（21ページ）。CLEARボタンを押すと通常の画面に戻ります。

表示言語や音声言語の設定をする

（言語設定）

画面や音声の言語を設定することができます。

設定画面で[言語設定]を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（73ページ）をご覧ください。



■ 画面表示言語

画面の表示言語を切り換えます。

■ メニュー言語（DVDビデオのみ）

メニューの言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。

■ 音声言語（DVDビデオのみ）

音声の言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。
[オリジナル]を選んだときは、ディスクで優先されている言語が選ばれます。

■ 字幕言語（DVDビデオのみ）

字幕の言語を切り換えます。
表示される言語の一覧から選びます。
[音声連動]を選んだときは、字幕言語は、音声の言語に合わせて切り換わります。

ちょっと一言

- [メニュー言語]、[音声言語]、[字幕言語]で[その他→]を選んだときは、言語コード一覧表（92ページ）から言語コードを選び入力してください。数字ボタンで言語コードを入力します。

ご注意

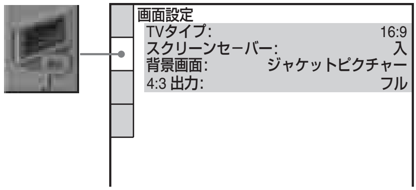
- [メニュー言語]、[音声言語]、[字幕言語]で選んだ言語がDVDビデオに記録されていないときは、記録されている言語のいずれかが選ばれます。（ディスクによっては自動で言語が選ばれないものがあります。）

画像に関する設定をする

（画面設定）

つないだテレビに合わせて画像に関する設定ができます。お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

設定画面で[画面設定]を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（73ページ）をご覧ください。



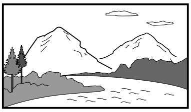
■ TVタイプ

つないだテレビの画面の種類（ワイドテレビまたは4：3画面テレビ）を設定します。

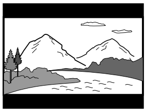
<u>16:9</u>	ワイドテレビまたは、ワイドモードのあるテレビとつなぐとき。
4:3 レターボックス	4:3画面のテレビとつなぐとき。ワイド画像は横長のまま表示し、画面の上下は黒く表示します。
4:3 パンスキャン	4:3画面のテレビとつなぐとき。ワイド画像は映像の左右を自動的にカットしてテレビ画面全体に表示します。

次のページへつづく

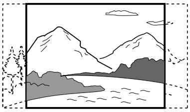
16:9



4:3 レターボックス



4:3 パンスキャン



ご注意

- DVDによっては[4:3レターボックス]あるいは[4:3パンスキャン]に設定していても、自動的にどちらかで再生されるものがあります。

■ スクリーンセーバー

本機を操作しない状態で15分以上経過するか、CD、データCD（MP3音声トラック）、データDVDを15分以上再生すると、スクリーンセーバーの画面に切り換わるよう設定します。画像の焼き付き（残像現象）を防ぐのに役立ちます。▷ を押すと、スクリーンセーバー画面は消えます。

入	スクリーンセーバーを使います。
切	スクリーンセーバーを使いません。

■ 背景画面

停止中やCD、データCD（MP3音声トラック）、データDVD再生中などの、画面の背景色や背景画面を設定します。

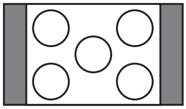
ジャケットピクチャー	ディスク（CD-EXTRAなど）にあらかじめ記録されているジャケットピクチャー（静止画像）を背景画面にします。ディスクにジャケットピクチャーが記録されていないときは、「グラフィックス」の画像が表示されます。
グラフィックス	あらかじめ本機に記録されているグラフィックピクチャーを背景画面にします。
青	画面の背景色を「青」にします。
黒	画面の背景色を「黒」にします。

■ 4:3出力

縦横比の設定を変えることができない16:9のプログレッシブ対応テレビなどで、縦横比4:3のプログレッシブ信号が正しい縦横比で表示されないときに、設定することができます。テレビで縦横比を変えることができるときは、本機ではなくテレビ側で設定を変更してください。

この設定は、[画面設定]で[TVタイプ]を[16:9]に設定したときに有効です。

フル	お使いのテレビで縦横比が変えられるときに選んでください。
ノーマル	お使いのテレビで縦横比が変えられないときに選んでください。16:9の縦横比で、画像の左右に黒い帯がある状態で映し出されます。



縦横比16:9のテレビ画面

ご注意

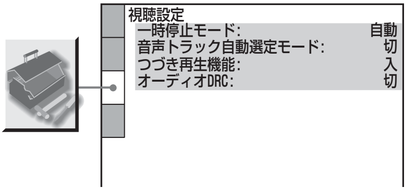
- この設定はコンポーネント映像出力端子（COMPONENT VIDEO OUT）からのプログレッシブ出力（27ページ）に対してのみ有効です。

視聴に関する設定をする

（視聴設定）

再生などに関する設定ができます。
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。

設定画面で[視聴設定]を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（73ページ）をご覧ください。



■一時停止モード（DVDビデオ、DVD-R、DVD-RWのみ）

一時停止中の画像を選びます。

自動	大きく動きのある被写体のある画像がぶれずに見られます。通常はこの設定にします。
フレーム	動きの少ない被写体の画像が高い解像度で見られます。

■音声トラック自動選定モード（DVDビデオのみ）

複数の音声記録方式が用意されているDVDビデオを再生するときに、チャンネル数の最も多い音声記録方式（PCM、DTS、ドルビーデジタル、MPEG音声トラック）を優先して再生できます。

切	優先しません。
入	優先します。

ご注意

- この設定を[入]にすると、言語が切り換わることがあります。これは[音声トラック自動選定モード]の設定が[言語設定]の「音声言語」（74ページ）より優先されるためです。
- PCM、DTS、ドルビーデジタル、MPEG音声トラックのチャンネル数が同じ場合、PCM、DTS、ドルビーデジタル、MPEG音声トラックの順で優先されます。

■つづき再生機能（DVDビデオ、ビデオCDのみ）

つづき再生機能の入/切を切り換えます。

入	つづき再生するポイントを40枚まで記録します。
切	つづき再生を記録しません。現在本機で再生しているディスクのみ続き再生をします。

■オーディオDRC*（DVDビデオのみ）

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。夜遅く、小さな音量で映画を見たいときに便利です。

* Dynamic Range Compressionの略称です。

切	ダイナミックレンジの圧縮はありません。
スタンダード	コーディングエンジニアが意図したようなダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。
最大	ダイナミックレンジを完全に圧縮します。

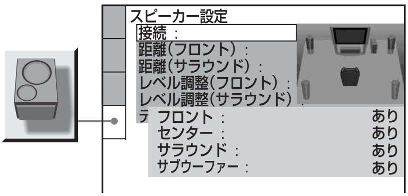
スピーカーに関する設定をする

（スピーカー設定）

サラウンドを十分に楽しむために、スピーカーの接続や、リスニングポジションからスピーカーまでの距離を設定し、テストトーンを使って、各スピーカーのバランスを調節します。

設定画面で[スピーカー設定]を選びます。詳しくは「設定画面を使う」（73ページ）をご覧ください。お買い上げ時は下線の付いている項目または数値に設定されています。

ご注意
- ヘッドホンを本機につないでいると設定を行うことができません。



設定を変更している途中で、お買い上げ時の設定に戻すには

項目を選んでCLEARボタンを押します。ただし[接続]の設定のみお買い上げ時の設定に戻りません。

■ 接続

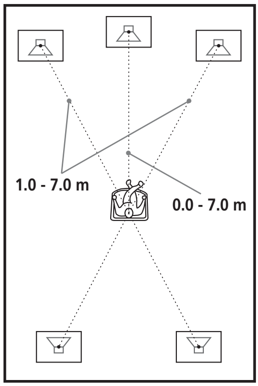
センタースピーカーやサラウンドスピーカーを接続しない場合は、[センター]や[サラウンド]を設定し直します。フロントスピーカーとサブウーファーの設定は変えられません。

フロント	あり
センター	あり：通常はこの設定にします。 なし：センタースピーカーを接続しない場合は[なし]にします。
サラウンド	あり：通常はこの設定にします。 なし：サラウンドスピーカーを接続しない場合は[なし]にします。
サブウーファー	あり

ご注意
- [接続]の設定を変えると、[スピーカー配置]は[標準]に戻ります。

■ 距離（フロント）

リスニングポジションからスピーカーの距離のお買い上げ時の設定値は以下のようになっています。
クイック設定（21ページ）で距離を設定した場合、設定した値が表示されます。



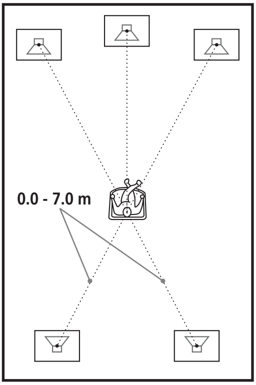
スピーカーの位置を変えた場合は、設定画面で設定値を変更してください。

L/R 3.0 m	1m〜7mの範囲で、0.2m刻みで設定できます。
センター 3.0 m ([接続]の[センター]を[あり]に設定したときのみ)	フロントスピーカーと同じ距離からリスニングポジションに1.6m近い距離までの範囲で、0.2m刻みで設定できます。

■ 距離（サラウンド）

リスニングポジションからスピーカーの距離のお買い上げ時の設定値は以下のようになっています。

クイック設定（21ページ）で距離を設定した場合、設定した値が表示されます。



スピーカーの位置を変えた場合は、設定画面で設定値を変更してください。

L/R 3.0 m （[接続]の[サラウンド]を[あり]に設定したときのみ）	フロントスピーカーと同じ距離からリスニングポジションに5.0m近い距離までの範囲で、0.2m刻みで設定できます。

ご注意

- サラウンドスピーカーをフロントスピーカーより離れた位置に置かないでください。
- [距離]の設定は入力信号によって無効になることもあります。

■ レベル調整（フロント）

フロントスピーカーのレベルは次のように調整できます。

L/R 0.0 dB	−6dB～0dBの範囲で、1dB刻みで設定できます。
CENTER 0.0 dB （[接続]の[センター]を[あり]に設定したときのみ）	−6dB～+6dBの範囲で、1dB刻みで設定できます。
サブウーファー 0.0 dB	−6dB～+6dBの範囲で、1dB刻みで設定できます。

■ レベル調整（サラウンド）

サラウンドスピーカーのレベルは次のように調整できます。

L/R 0.0 dB （[接続]の[サラウンド]を[あり]に設定したときのみ）	−6dB～+6dBの範囲で、1dB刻みで設定できます。

すべてのスピーカーの音量を一度に変える

本体のVOLUMEボタンまたはリモコンのVOLUME＋/−ボタンで調整します。

■ テストトーン

[レベル調整（フロント）]や[レベル調整（サラウンド）]を調節するために、テストトーンを聞くことができます。

切	テストトーンは出ません。
入	各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。[スピーカー設定]の項目を調整している間は、調整しているスピーカーからテストトーンが聞こえます。

次のページへつづく

テストトーンでスピーカーのレベルを調節する

テストトーンを聞くために、ボリューム位置を20～25くらいまであげてください。

1 **停止中に、DISPLAYボタンを押す。**

コントロールメニュー画面が表示されます。

2 **↑/↓ を繰り返し押して[設定]を選び、ENTERボタンを押す。**

[設定]の項目が表示されます。

3 **↑/↓を繰り返し押して[カスタム]を選び、ENTERボタンを押す。**

設定画面が表示されます。

4 **↑/↓を繰り返し押して[スピーカー設定]を選び、ENTERボタンまたは→を押す。**

5 **↑/↓を繰り返し押して[テストトーン]を選び、ENTERボタンまたは→を押す。**

6 **↑/↓を繰り返し押して[入]を選び、ENTERボタンを押す。**

各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。

7 **リスニングポジションで、すべてのスピーカーからテストトーンが同じレベルに聞こえるように、←/↑/↓/→で[レベル調整（フロント）]および[レベル調整（サラウンド）]の設定を調節する。**

レベル調整している間は、調節しているスピーカーからテストトーンが聞こえます。

8 **調節が終わったら、ENTERボタンを押す。**

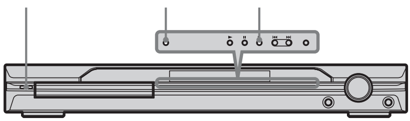
すべてのスピーカーについて行ってください。

9 **すべてのスピーカーの調整が終わったら、↑/↓を繰り返し押して[テストトーン]を選び、ENTERボタンを押す。**

10 **↑/↓を繰り返し押して[切]を選び、ENTERボタンを押す。**

設定項目をお買い上げ時の設定に戻す

登録したラジオ局など、各設定項目をお買い上げ時の設定に戻すことができます。



1 I/⏻ 電源ボタンを押して本体の電源を入れる。

2 ■、≙、I/⏻ 電源ボタンを同時に押す。

表示窓に「COLD RESET」が表示され、設定項目がお買い上げ時の設定に戻ります。

ディスクの取り扱い上のご注意

取り扱いかた

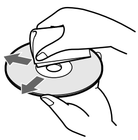
- 再生面に手を触れないように持ちます。

保存のしかた

- 直射日光が当たるところなど温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。ケースに入れずに重ねたり、立てかけておくと変形の原因になります。

お手入れのしかた

- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、映像の乱れや音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- ふだんのお手入れは、柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。



- 汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布で拭いた後、さらに乾いた布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、ディスクを傷めることがありますので、使わないでください。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

電源

電源が入らない。

→ 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

本体の表示窓に「PROTECTOR」や「PUSH POWER」が交互に表示される。

→ I/⏻電源ボタンを押して電源を切り、「STANDBY」の表示が消えたら以下の項目を確認する。
- スピーカーコードがショートしていないか？
- 付属のスピーカーを使っているか？
- 本体の通気孔がふさがっていないか？

上記の項目を点検し、電源を入れる。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）に問い合わせる。

映像

映像が出ない。

→ 接続コードのプラグがしっかり差し込まれていない。

→ S映像コード(別売り)を使って本機のS映像出力端子（MONITOR OUTのS VIDEO）につなぐときは、お使いのテレビ側でもS映像入力端子につなぐ（26ページ）。

→ コンポーネント映像コード(別売り)を使って本機のコンポーネント映像出力端子（COMPONENT VIDEO OUT）につなぐときは、お使いのテレビ側でもコンポーネント映像入力端子につなぐ（26ページ）。

→ 映像コードが断線している。

➔ テレビの入力端子を間違えている（14、26ページ）。
➔ テレビの入力切り換えで本機の映像が映るように切り換えていない。
➔ プログレッシブ方式に対応していないテレビとつないでいるときに、プログレッシブ設定にすると画像が乱れる。その場合は、インターレース(お買い上げ時の設定)にする（27ページ）。

映像が乱れる。
➔ ディスクに汚れや傷がある。
➔ プログレッシブ方式に対応しているテレビでも、プログレッシブに設定すると画像が乱れる場合がある。その場合は、インターレース(お買い上げ時の設定)にする（27ページ）。
➔ 本機の映像出力をビデオデッキを経由してテレビに接続していると、一部のDVDプログラムに使用されているコピープロテクション信号が画質に悪影響を及ぼす可能性がある。本機をテレビに直接接続する（26ページ）。
➔ 本機が安定した場所に設置されているか確認する。

設定画面の[画面設定]の[TVタイプ]で設定した画像の形で再生できない。
➔ 画像の形が固定されているディスクを再生している。

テレビ画面に色むらが起きる。
➔ 本機のサブウーファーとフロントスピーカーは磁気モレを防ぐ防磁カバーを採用しているが強力なマグネットのため、若干の磁気モレが生じる。色むらが起きた場合は、以下の項目を確認する。
- ブラウン管タイプのテレビやプロジェクターと一緒に使用する場合は十分に（約30ｃｍ）離す。
- それでも色むらが起きたら、いったんテレビの電源を切り、15～30分後に再びスイッチを入れる。
- ハウリングが生じたら、スピーカーをテレビより離して置く。
- スピーカーの近くに磁気を発生するものがないように注意する。スピーカーとの相互作用により、色むらを起す場合がある。磁気を発生するもの：ラック、置き台の扉に装着された磁石、健康器具、玩具などに使われている磁石など。

音声

音が出ない。
➔ スピーカーコードと本体がしっかり差し込まれていない。（15ページ）
➔「MUTING ON」と表示されている場合は、リモコンのMUTINGボタンを押す。
➔ 一時停止、スロー再生になっているときは、▷を押して通常の再生に戻す。
➔ 早送り、早戻しになっているときは、▷を押して通常の再生に戻す。
➔ スピーカーが正しく接続されているか確認する（14ページ）。
➔ つないだ他の機器の音声が出ないときは、その機器の音声出力の設定を確認する。

左右のスピーカーのバランスが悪い、または音声が逆になっている。
➔ スピーカーやつないだそのほかの機器が正しく接続されているか確認する。
➔ スピーカーの設置を確認する（20ページ）。

サブウーファーから音が出ない。
➔ スピーカーの接続と設定を確認する（14、78ページ）。

ハム音またはノイズがひどい。
➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。
➔ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿らせた布で拭き取る。
➔ ディスクに汚れ、傷がある。

ビデオCDやCD、MP3音声トラックを再生したときに、音に奥行き感がなく、モノラルのように聞こえる。
➔ AUDIOボタンを押して、音声を[ステレオ]にする（45ページ）。
➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。

次のページへつづく

サラウンド効果が得られない。
- ➔ 選ばれているサウンドフィールドを確認する（34ページ）。
- ➔ スピーカーの接続と配置を確認する（14、78ページ）。
- ➔ マルチチャンネル信号ではなく、モノラル、ステレオの信号を再生している。

センタースピーカーからしか音が出ない。
- ➔ ディスクによってはセンタースピーカーからしか音が出ないものもある。

センタースピーカーから音が出ない。
- ➔ スピーカーの接続と設定を確認する（14、78ページ）。
- ➔ 選ばれているサウンドフィールドを確認する（34ページ）。
- ➔ ソースによってはソフトの音声効果上、センタースピーカーの音が小さく記録されているものがある。

サラウンドスピーカーの音が出ない、ほとんど聞こえない。
- ➔ スピーカーの接続と設定を確認する（14、78ページ）。
- ➔ 選ばれているサウンドフィールドを確認する（34ページ）。
- ➔ ソースによってはソフトの音声効果上、サラウンドスピーカーの音が小さく記録されているものがある。

表示窓に表示されているスピーカーから音が出ない。
- ➔ 表示窓に表示されるのは音が出るスピーカーではなく、選択されている[スピーカー配置]です（34、69ページ）。

操作

放送局が受信できない。
- ➔ アンテナが正しく接続されているか確認する。
  アンテナの向きを調節したり、屋外アンテナを使用したりする。
- ➔ 自動受信をしている場合に受信状態が悪いときは、手動受信する。
- ➔ プリセットチューニングしている場合、何も登録していない、または登録した放送局を消してしまった。その場合は登録する（59ページ）。
- ➔ 受信している周波数を確認する。

リモコンで操作できない。
- ➔ リモコンと本体との間に障害物がある。
- ➔ リモコンと本体との距離が離れている。
- ➔ 本体のリモコン受光部に向けて操作していない。
- ➔ リモコンの電池が消耗している。

再生が始まらない。
- ➔ ディスクが入っていない。
- ➔ ディスクが裏返しに入っている。
  再生面を下にする。
- ➔ ディスクが斜めにずれて入っている。
- ➔ CD-ROMなどの、再生できないディスクを入れている（9ページ）。
- ➔ 本機で再生できない地域番号のDVDを入れている。
- ➔ 結露している。ディスクを取り出して電源を入れたままの状態で約30分放置し、再び電源を入れ直してから再生を始める。
- ➔ 規格から外れた一部ディスクは、本機では再生できない場合がある。
  ある特定のディスクが再生できない場合は、裏表紙に書かれているソニーの相談窓口まで問い合わせる。

MP3音声トラックが再生できない。
- ➔ ISO9660 レベル1/レベル2、またはその拡張フォーマット/Joliet に準拠していないMP3 音声トラックが記録されている。
- ➔ データDVDにUDF (Universal Disk Format)に準拠していないMP3音声トラックが記録されている。
- ➔ 拡張子が「.MP3」になっていない。
- ➔ 拡張子は「.MP3」だが、MP3音声トラック以外のデータ形式になっている。
- ➔ 本機は MP3PROで記録された音声は再生できない。
- ➔ [音声映像選択モード]設定が[映像(JPEG)]に設定されている（55ページ）。
- ➔ [音声映像選択モード]設定を[音声（MP3）]に変えられない場合は、ディスクを入れなおすか、電源を入れなおす。

JPEG画像ファイルが再生できない。
- ISO9660レベル1/レベル2、またはその拡張フォーマット/Jolietに準拠していないJPEG画像ファイルが記録されている。
- データDVDにUDF (Universal Disk Format)に準拠していないJPEG画像ファイルが記録されている。
- 拡張子が「.JPG」または「.JPEG」になっていない。
- 拡張子は「.JPG」または「.JPEG」だが、JPEG画像ファイル以外のデータ形式になっている。
- 横3,072×縦2,048ドット以上、または200万画素を超えるプログレッシブJPEG画像ファイル（主にインターネットのウェブサイトで使用）は表示できない。
- 画面に正しく表示されない（画面にあうように調整されて表示される）。
- [音声映像選択モード]設定が[音声（MP3)]になっている（55ページ）。
- [音声映像選択モード]設定を[映像（JPEG）]に変えられない場合は、ディスクを入れなおすか、電源を入れなおす。

MP3音声トラックとJPEG画像ファイルの再生が同時に始まる。
- [音声映像選択モード]設定で[自動]が選択されている（55ページ）。

JPEG画像ファイルのアルバム／ファイル名が正しく表示されない。
- 本機で表示できる文字はアルファベットと数字のみ。それ以外の文字は「*」と表示される。

再生がディスクの最初から始まらない。
- プログラムまたはシャッフル、リピート再生になっている。ディスクを再生する前にCLEARボタンを押してこれらの機能を解除する。
- リジューム再生になっている。停止中に、本体またはリモコンの■（停止）ボタンを押してから再生を始める（40ページ）。
- 自動的にタイトルメニュー、DVDメニュー、PBCのメニューの画面が表示されるディスクを入れている。

再生が自動的に始まる。
- 自動的に再生が始まるDVDを入れている。

再生が自動的に止まる。
- ディスクによってはオートポーズ信号が記録されているものがある。このようなディスクを再生すると、オートポーズ信号のところで自動的に再生が止まる。

ストップ、サーチ、スロー、リピート再生などの操作ができない。
- 操作を禁止しているディスクを再生している。ディスクに付属の説明書もあわせて確認する。

希望する言語で画面表示されない。
- 設定画面の[言語設定]の[画面表示言語]で希望の言語を選ぶ（74ページ）。

音声言語を変更できない。
- 再生しているDVDに複数の音声言語が記録されていない。
- 音声言語の切り換えを禁止しているDVDを再生している。

字幕を変更できない。
- 再生しているDVDに複数の字幕が記録されていない。
- 字幕の変更を禁止しているDVDを再生している。

字幕を消すことができない。
- 字幕表示を消すことを禁止しているDVDを再生している。

アングルを変更して見ることができない。
- 再生しているDVDに複数のアングルが記録されていない（49ページ）。
- アングルの変更を禁止しているDVDを再生している。

ディスクを取り出すことができず、表示窓に「LOCKED」と表示される。
- お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）に問い合わせる。

データCD/データDVDを再生中に、テレビ画面に[データエラー（AUDIO）]または[データエラー（IMAGE）]と表示される。
- 再生しようとしているMP3音声トラック、またはJPEG画像ファイルが壊れている。
- データがMPEG1 Audio Layer 3でない。

次のページへつづく

→ JPEG画像ファイルがDCFフォーマットでない。
→ 拡張子は「.JPG」または「.JPEG」だが、JPEG画像ファイル以外のデータ形式になっている。

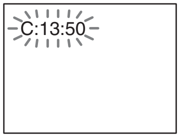
本機が正常に作動しない。

→ 正常に作動しなくなったときは、電源コードをコンセントから抜いて電源を切り、数分後に再び電源を入れる。

自己診断機能

（本体の表示窓に文字や数字が表れたとき）

本機を故障から守るために、本機には自己診断機能がついています。本体の表示窓に、「C 13 50」のような5文字のサービスナンバーが現れたときは、以下の項目を確認してください。

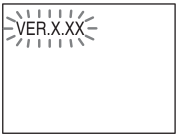


サービスナンバーの最初の3文字	原因と対応
C13	ディスクが汚れている → 柔らかい布でディスクを拭く（82ページ）。
C31	ディスクが正しく入っていない。 → 本体の電源を切り、再び入れた後にディスクを正しく入れなおす。
E XX （XXは数字）	故障を防ぐために、自己診断機能が働いている。 → お買い上げ店またはソニーサービス窓口、ソニーの相談窓口（裏表紙）に問い合わせる。そのときは、5つのサービスナンバーを知らせる。 例：E 61 10

画面にバージョン番号が表示されたときは

本機の電源を入れたときに、画面にバージョン番号[VER.X.XX]（Xは数字）が表示されることがあります。この表示はソニーサービスで使用するものなので、故障ではありません

が、そのままでは通常の操作はできません。電源を入れなおしてから操作してください。



保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、DVDホームシアターシステムの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保

次のページへつづく

有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。
ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：DAV-DZ110
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 自己診断機能の状況：
- 故障したときに再生していたディスク：
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカー名と型番：
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

総合出力　850W
実用最大出力
(JEITA**)　フロント部: 142 W + 142 W (3Ω)
センター部*: 142 W (3Ω)
サラウンド部*: 142 W + 142 W (3Ω)
サブウーファー部*: 140 W (3Ω)
* ソースによっては出力しない場合があります。

入力（アナログ）
TV/VIDEO
感度：450/250mＶ RMS
AUDIO IN
感度：250/125mＶ RMS
出力（アナログ）
PHONES
ステレオミニジャック、低および高インピーダンスヘッドホン対応

DVD部

レーザー　半導体レーザー
(DVD : λ=650nm)
(CD : λ=790nm)
放出持続時間：連続
信号方式　JEITA標準*、NTSCカラー方式

チューナー部

回路方式　PLLデジタル周波数シンセサイザークォーツロック方式
FMチューナー部
受信周波数　76.0－90.0MHz (100kHz間隔)
アンテナ　ワイヤーアンテナ 75Ω、不平衡型
中間周波数　FM：10.7MHz
AMチューナー部
受信周波数　531－1,602kHz（9kHz間隔）
アンテナ　ループアンテナ
中間周波数　450kHz

映像部

出力　映像：1Vp-p 75Ω
S 映像：Y: 1Vp-p 75Ω
C: 0.286Vp-p, 75Ω
コンポーネント 映像：
Y: 1Vp-p、C_B, C_R: 0.7Vp-p 75Ω

スピーカー

フロント/サラウンド

方式	バスレフ型、防磁型（JEITA**）
使用ユニット	6.5cm コーン型
定格インピーダンス	3Ω
最大外形寸法	92×151×83mm（幅/高さ/奥行き）
質量	約0.6kg

センター

方式	バスレフ型、防磁型（JEITA**）
使用ユニット	6.5cm コーン型
定格インピーダンス	3Ω
最大外形寸法	260×95×86mm（幅/高さ/奥行き）
質量	約0.7kg

サブウーファー

方式	バスレフ型、防磁型（JEITA**）
使用ユニット	16cm コーン型
定格インピーダンス	3Ω
最大外形寸法	200×312×360mm（幅/高さ/奥行き）
質量	約5.6kg

**JEITA（電子情報技術産業協会）の規格による測定値です。

本体

電源	AC 100V、50/60Hz
消費電力	150W （スタンバイモードのとき：0.3W）
最大外形寸法	430×55×360mm（幅/高さ/奥行き）(突起部分を含む)
質量	約3.8kg

付属品

- スピーカー（5）
- サブウーファー（1）
- AMループアンテナ（1）
- FMワイヤーアンテナ（1）
- 映像コード（1）
- スピーカーコード (6)
- リモコン（1）
- 単3形乾電池（R06）（2）
- 測定マイク（1）
- スピーカーパッド（1セット）
- 取扱説明書
- かんたん接続・設定ガイド（カード）（1）
- ソニーご相談窓口のご案内（1）
- 保証書（1）

付属品がそろっていないときは、お手数ですがお買い上げ店にご連絡ください。
本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。
仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

eco info

- 主なプリント配線板にハロゲン系難燃剤を使用していません
- はんだ付け部に無鉛はんだを使用
- キャビネットにハロゲン系難燃剤を使用していません
- スピーカー外装にポリ塩化ビニルを不使用
- RoHS指令（欧州環境規制）に対応済み

用語解説

アルバム
MP3音声トラックやJPEG画像ファイルを記録しているデータCDの中の単位の1つです。

視聴制限
国ごとの規制レベルに合わせて、視聴制限に対応したディスクの再生を制限する、というDVDビデオの機能。制限のしかたはDVDビデオによって異なり、全く再生できない場合や過激な場面をとばしたり、別の場面に差し替えて再生する場合などがある。

シーン
PBC（プレイバックコントロール）対応のビデオCDで、メニュー画面や動画、静止画の区切りのこと。

自動音場補正（Digital Cinema Auto Calibration）
ソニーが開発した自動音場補正（Digital Cinema Auto Calibration)は、スピーカーの距離やレベルを自動的に測定し、短時間で視聴環境のスピーカー設定を調整する。

タイトル
DVDに記録されている映像や曲のいちばん大きな単位。通常は映像ソフトでは映画1作品、音楽ソフトではアルバム1枚（または1曲）にあたる。

地域番号（リージョンコード）
著作権保護を目的に設けられた制度。販売地域によって、DVDプレーヤーやDVDディスクには地域番号が割り当てられていて、プレーヤー本体やディスクのパッケージに、それぞれの地域番号が表示されている。プレーヤーとディスクの地域番号が一致していると再生できる。ALL表示のあるディスクは、どのプレーヤーでも再生できる。なお、地域番号の表示がないDVDでも、地域制限されている場合がある。

チャプター
DVDに記録されている映像や曲の区切りで、タイトルよりも小さい単位。1つのタイトルはいくつかのチャプターで構成される。チャプターが記録されていないディスクもある。

トラック
ビデオCDやCDに記録されている映像や曲の区切り（1曲分）。

ドルビーサラウンド（プロロジック）
ドルビーラボラトリーズ社がサラウンド音声のために開発した音声信号の処理技術。入力信号にサラウンド信号があるとき、プロロジック処理をして、フロント、センター、サラウンドに信号を出力する。サラウンドチャンネルはモノラルになる。

ドルビーデジタル
ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。

ドルビープロロジックII
ドルビープロロジックIIは、ソース本来の音質を損なうことなく空間的広がりを引き出す高音質、高性能のマトリックスサラウンドデコーダです。マトリックス処理により、2チャンネルソースをフルレンジの5チャンネルサラウンドに広げて再生します。

■ ムービーモード
ムービーモードではフロントとサラウンドのセパレーションを高めるためにサラウンドチャンネルディレイが加えられており、安定した音場定位を得ることができます。通常のステレオソース、ドルビーサラウンドでエンコードされたソースの両方に適しています。

■ ミュージックモード
ミュージックモードでは、センター音像調整機能、前後バランス調整機能を使用して包囲

感のある音場設定が可能です。あらゆるステレオ音楽ソースに適しています。

ビデオCD

動画の記録されているCD。
ビデオCDでは、デジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG1」（エムペグ1）を使うことにより、映像情報を平均約140分の1に圧縮している。これにより、12cmのディスクに最大74分までの動画を記録できる。
また、音声情報についても、人間には基本的には聴こえない音声を圧縮して記録し、従来の音楽用CDと比較すると、音声情報も約6分の1に圧縮している。
ビデオCDには、動画や音声の再生だけが可能なバージョン1.1と、高精細の静止画の再生やPBC（プレイバックコントロール）機能を持ったバージョン2.0がある。

ファイル

JPEG画像を記録しているデータCDの中の単位の1つです。

プログレッシブ（順次走査）

通常のテレビ放送のNTSCインターレース方式では、1秒間に30枚の画像を次々に映し出すことで動画を再現し、1枚の画像を走査線の奇数、偶数で2回に分けて、見かけ上1秒間に60枚の画像を映し出す。これに対してプログレッシブ方式の場合は、走査線を飛び越すことなく、NTSCで言えば525本の走査線を使って、1秒間に60枚の画像を映し出す。細かな文字や横線などの多い場面などで高画質な映像を再現できる。

マルチアングル

DVDの機能のひとつで、同じ場面が視点を変えて複数のアングル（カメラの位置）で記録されていること。

マルチランゲージ

DVDの機能のひとつで、同じ映像に対して音声や字幕が複数の言語で記録されていること。

DTS

デジタルシアターシステムズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。

DVD

CDと同じ直径で最大8時間までの動画が記録できるディスク。
片面1層で4.7GB（Gigaギガ Byteバイト）とCDの7倍の情報が記録でき、片面2層で8.5GB、両面1層では9.4GB、両面2層では17GBが記録できる。
画像の記録はデジタル圧縮技術の世界標準規格のひとつ、「MPEG2（エムペグ）」を採用し、映像データを約1/40（平均）に圧縮して記録する。また画像の状態に合わせて割り当てる情報量を変化させる可変レート符号化技術も採用されている。音声情報はPCMの他、ドルビーデジタル、DTSを用いて記録でき、より臨場感のある音声を楽しめる。

DVD-RW

DVD-RWとは、DVDビデオと同じサイズで、データの記録、書き換えが可能なディスク。
DVD-RWにはVRモードとビデオモードの2つのモードがある。ビデオモードで作られたDVD-RWはDVDビデオと同じフォーマットなのに対して、VRモードで作られたDVD-RWはプログラム、または編集が可能なディスクとなっている。

DVD+RW

DVD+RWとは、データの記録、書き換えが可能なディスクで、DVDビデオと同程度の記録方式を使っている。

言語コード一覧表

言語名表記はISO639:1988（E/F）に準拠

Code	Language	Code	Language	Code	Language	Code	Language
1027	Afar	1183	Irish	1347	Maori	1507	Samoan
1028	Abkhazian	1186	Scots Gaelic	1349	Macedonian	1508	Shona
1032	Afrikaans	1194	Galician	1350	Malayalam	1509	Somali
1039	Amharic	1196	Guarani	1352	Mongolian	1511	Albanian
1044	Arabic	1203	Gujarati	1353	Moldavian	1512	Serbian
1045	Assamese	1209	Hausa	1356	Marathi	1513	Siswati
1051	Aymara	1217	Hindi	1357	Malay	1514	Sesotho
1052	Azerbaijani	1226	Croatian	1358	Maltese	1515	Sundanese
1053	Bashkir	1229	Hungarian	1363	Burmese	1516	Swedish
1057	Byelorussian	1233	Armenian	1365	Nauru	1517	Swahili
1059	Bulgarian	1235	Interlingua	1369	Nepali	1521	Tamil
1060	Bihari	1239	Interlingue	1376	Dutch	1525	Telugu
1061	Bislama	1245	Inupiak	1379	Norwegian	1527	Tajik
1066	Bengali;	1248	Indonesian	1393	Occitan	1528	Thai
	Bangla	1253	Icelandic	1403	(Afan)Oromo	1529	Tigrinya
1067	Tibetan	1254	Italian	1408	Oriya	1531	Turkmen
1070	Breton	1257	Hebrew	1417	Punjabi	1532	Tagalog
1079	Catalan	1261	Japanese	1428	Polish	1534	Setswana
1093	Corsican	1269	Yiddish	1435	Pashto;	1535	Tonga
1097	Czech	1283	Javanese		Pushto	1538	Turkish
1103	Welsh	1287	Georgian	1436	Portuguese	1539	Tsonga
1105	Danish	1297	Kazakh	1463	Quechua	1540	Tatar
1109	German	1298	Greenlandic	1481	Rhaeto-	1543	Twi
1130	Bhutani	1299	Cambodian		Romance	1557	Ukrainian
1142	Greek	1300	Kannada	1482	Kirundi	1564	Urdu
1144	English	1301	Korean	1483	Romanian	1572	Uzbek
1145	Esperanto	1305	Kashmiri	1489	Russian	1581	Vietnamese
1149	Spanish	1307	Kurdish	1491	Kinyarwanda	1587	Volapük
1150	Estonian	1311	Kirghiz	1495	Sanskrit	1613	Wolof
1151	Basque	1313	Latin	1498	Sindhi	1632	Xhosa
1157	Persian	1326	Lingala	1501	Sangho	1665	Yoruba
1165	Finnish	1327	Laothian	1502	Serbo-	1684	Chinese
1166	Fiji	1332	Lithuanian		Croatian	1697	Zulu
1171	Faroese	1334	Latvian;	1503	Singhalese		
1174	French		Lettish	1505	Slovak		
1181	Frisian	1345	Malagasy	1506	Slovenian	1703	無指定

視聴制限地域コード

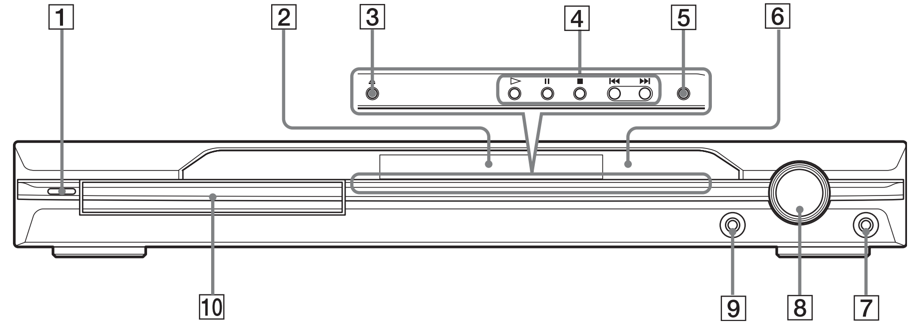
地域コード

使用する地域	コード番号	使用する地域	コード番号
アルゼンチン	2044	チリ	2090
イギリス	2184	デンマーク	2115
イタリア	2254	ドイツ	2109
インド	2248	日本	2276
インドネシア	2238	ニュージーランド	2390
オーストラリア	2047	ノルウェー	2379
オーストリア	2046	パキスタン	2427
オランダ	2376	フィリピン	2424
カナダ	2079	フィンランド	2165
韓国	2304	ブラジル	2070
シンガポール	2501	フランス	2174
スイス	2086	ベルギー	2057
スウェーデン	2499	ポルトガル	2436
スペイン	2149	マレーシア	2363
タイ	2528	メキシコ	2362
中国	2092	ロシア	2489

各部のなまえ

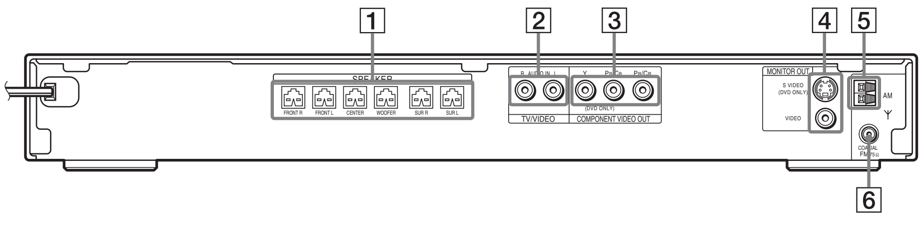
詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

本体前面



1. I/⏻電源ボタン（30）
2. 表示窓（95）
3. ≙（ディスクトレイ開閉）ボタン（30）
4. 操作ボタン（30）
5. FUNCTIONボタン（30）
6. Ⓡリモコン受光部（13）
7. PHONES（ヘッドホン）端子（30）
8. VOLUME（音量）調節つまみ（30）
9. AUDIO IN/A.CAL MIC（21、31）
10. ディスクトレイ（30）

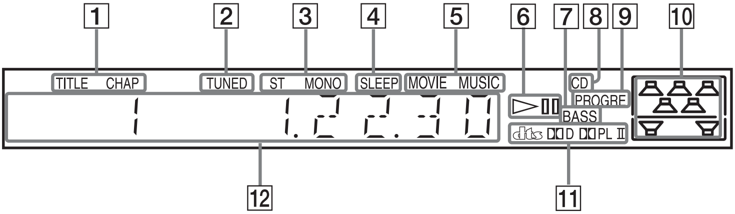
本体後面



1. SPEAKER スピーカー出力端子（14）
2. L/Rアナログ音声入力端子（TV/VIDEO AUDIO IN）（29）
3. コンポーネント映像出力端子（CONPONENT VIDEO OUT）（26）
4. 映像出力/S 映像出力端子（MONITOR OUT（VIDEO/S VIDEO））（14、26）
5. AMアンテナ端子（14）
6. FM 75Ω COAXIALアンテナ端子（14）

本体の表示窓

本体表示窓のインジケータについて



1 本体の表示窓にタイトルまたはチャプターの時間情報が表示されているときのみ点灯（DVDのみ）（47）

2 放送局を受信したときに点灯（ラジオのみ）（59）

3 モノラル/ステレオ効果（ラジオのみ）（59）

4 スリープモードのときに点灯（64）

5 MOVIE（ムービー）/MUSIC（ミュージック）モードのときに点灯（33）

6 再生状態（DVDファンクションのみ）

7 DYNAMIC BASS（ダイナミックバス）が選択されているときに点灯（63）

8 CDがディスクトレイに入っているときに点灯

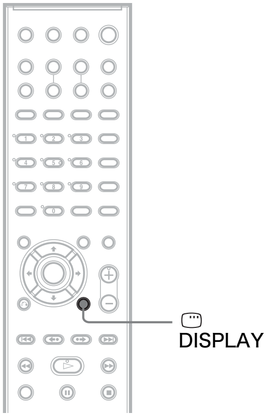
9 プログレッシブ信号が出力されているときに点灯（DVDファンクションのみ）（27）

10 選択されている [スピーカー配置]を表示（69）

11 現在の音声の状態 （JPEGを除く）

12 本機の状態を表示（チャプター、タイトル、トラック番号、時間情報、ラジオ周波数、再生状態、サウンドフィールドなど）

コントロールメニュー画面の見かた



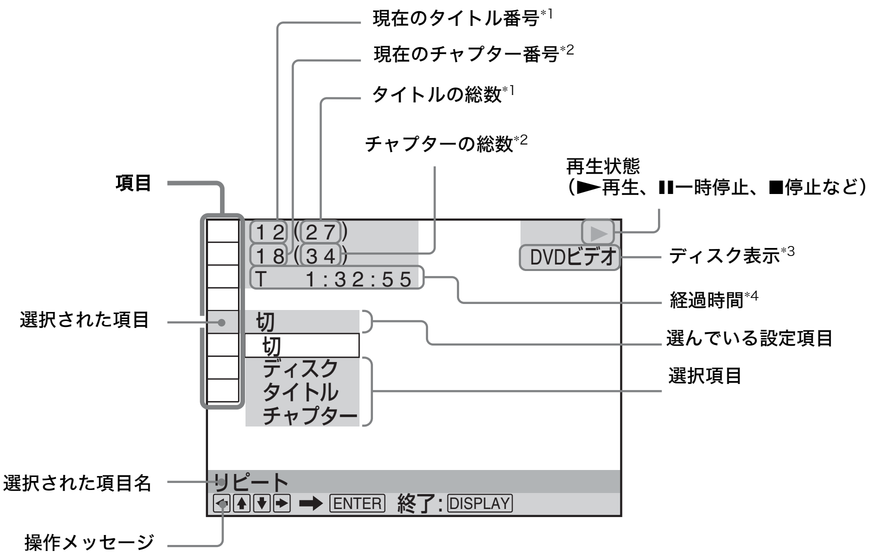
コントロールメニュー画面を使って、ファンクションを選んだり、関連する情報を選んだりします。DISPLAYボタンを繰り返し押すと、テレビの表示は以下のように切り換わります。

コントロールメニュー画面　1
↓
コントロールメニュー画面　2（特定のディスクのみ表示）
↓
コントロールメニュー画面　切

コントロールメニュー画面表示

コントロールメニュー 1、2はディスクの種類によって表示される項目が違います。詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

例：DVDビデオ再生中のコントロールメニュー画面　1



*1 PBC 再生時のビデオ CD のシーン、ビデオ CD/CD のトラック、データ CD/ データ DVD のアルバムを表示します。
*2 ビデオ CD のインデックス、データ CD/ データ DVD の MP3 音声トラック、JPEG 画像ファイルを表示します。
*3 スーパー VCD は SVCD と表示します。データ CD/ データ DVD の MP3 音声トラックは MP3 ディスクとしてコントロールメニュー画面 1、JPEG 画像ファイルは JPEG ディスクとしてコントロールメニュー画面 2 に表示します。
*4 JPEG 画像ファイルの場合は、コントロールメニュー画面 2 に日付を表示します。

コントロールメニュー画面表示を消すには

DISPLAYボタンを押します。

コントロールメニュー画面項目一覧

項目	項目名、機能、可能なディスクの種類
	[タイトル]（37 ページ）/ [シーン]（37 ページ）/ [トラック]（37 ページ） 再生するタイトル、シーン、トラックを選びます。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD
	[チャプター]（37 ページ）/ [インデックス]（37 ページ） 再生するチャプター、インデックスを選びます。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD
	[トラック]（37 ページ） 再生するトラックを選びます。 CD DATA-CD DATA DVD
	[オリジナル / プレイリスト]（46 ページ） 再生するタイトルの種類、オリジナルのタイトルあるいは編集して作成されたプレイリストを選びます。 DVD-VR

次のページへつづく

	[時間 / テキスト]（37 ページ） 経過時間および残り時間を調べます。 タイムコードを入力して映像や曲を探します。DVD や CD のテキスト、MP3 音声トラック名を表示します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD
	[スピーカー配置 / 自動音場補正]（69、71 ページ） スピーカーの配置を設定します。/ 自動で各スピーカーのレベルを調整します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD
	[プログラム]（41 ページ） トラックを選んで好きな順に再生します。 VIDEO CD CD
	[シャッフル]（42 ページ） トラックをランダム (無作為) な順番で再生します。 VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD
	[リピート]（43 ページ） ディスク全体 (全タイトル / 全トラック / 全アルバム) または 1 つのタイトル / チャプター / トラック / アルバムを繰り返し再生します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD
	[AV/SYNC]（50 ページ） 画像と音声のずれを調節します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD
	[視聴制限]（65 ページ） 特定のディスクやシーンの再生を禁止する設定をします。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD
	[設定]（73 ページ） [クイック]セットアップ（21ページ） つないだテレビに合う画面の縦横比や接続している［スピーカー配置］の設定、[自動音場補正]開始の選択を行います。 [カスタム]セットアップ クイックセットアップに加えて、さまざまな設定をします。 [リセット] クイックセットアップ、カスタムセットアップでの設定内容をお買い上げ時の設定に戻します。 DVD-V DVD-VR VIDEO CD CD DATA-CD DATA DVD
	[アルバム]（37 ページ） 再生するアルバムを選びます。 DATA-CD DATA DVD
	[ファイル]（37 ページ） 再生する JPEG 画像ファイルを選びます。 DATA-CD DATA DVD
	[日付]（49 ページ） JPEG 画像ファイルが撮影された日付を表示します。 DATA-CD DATA DVD
	[スライド送り時間]（55 ページ） スライドショーの表示する間隔を選びます。 DATA-CD DATA DVD
	[スライド効果]（55 ページ） スライドショーの表示が変わるときの効果を選びます。 DATA-CD DATA DVD
	[音声映像選択モード]（55 ページ） データ CD やデータ DVD を再生するときに、再生するデータの種類：MP3 音声トラック (音声)、JPEG 画像ファイル (映像)、または両方 (自動) を選びます。 DATA-CD DATA DVD

ちょっと一言

- コントロールメニュー画面のアイコンは、[切]以外を選んでいるときは緑に点灯します → ([プログラム]、[シャッフル]、[リピート]、[AV/SYNC]のみ)。[オリジナル/プレイリスト]アイコンは、[プレイリスト]を選んでいるときに緑に点灯します。

設定画面項目一覧表

設定画面で以下の項目を設定することができます。
表示される画面の順番は、実際の画面と異なる場合があります。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

言語設定

- 画面表示言語
  - 日本語
  - ENGLISH
- メニュー言語
  - 表示される言語の一覧から選びます
- 音声言語
  - 表示される言語の一覧から選びます
- 字幕言語
  - 表示される言語の一覧から選びます

視聴設定

- 一時停止モード
  - 自動
  - フレーム
- 音声トラック自動選定モード
  - 切
  - 入
- つづき再生機能
  - 入
  - 切
- オーディオDRC
  - 切
  - スタンダード
  - 最大

画面設定

- TVタイプ
  - 16:9
  - 4:3レターボックス
  - 4:3パンスキャン
- スクリーンセーバー
  - 入
  - 切
- 背景画面
  - ジャケットピクチャー
  - グラフィックス
  - 青
  - 黒
- 4:3出力
  - フル
  - ノーマル

スピーカー設定

- 接続
  - フロント
    - あり
  - センター
    - あり
    - なし
  - サラウンド
    - あり
    - なし
  - サブウーファー
    - あり
- 距離(フロント)
  - L — 1.0 m - 7.0 m
  - R — 1.0 m - 7.0 m
  - センター — 0.0 m - 7.0 m
- 距離(サラウンド)
  - L — 0.0 m - 7.0 m
  - R — 0.0 m - 7.0 m
- レベル調整(フロント)
  - L — -6.0 dB - 0.0 dB
  - R — -6.0 dB - 0.0 dB
  - センター — -6.0 dB - +6.0 dB
  - サブウーファー — -6.0 dB - +6.0 dB
- レベル調整(サラウンド)
  - L — -6.0 dB - +6.0 dB
  - R — -6.0 dB - +6.0 dB
- テストトーン
  - 切
  - 入

アンプメニュー項目一覧表

リモコンで以下のアンプメニュー項目を設定することができます。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

アンプメニュー

- DIMMER
  - DIMMER ON
  - DIMMER OFF
- DEMO
  - DEMO ON
  - DEMO OFF
- ATTENUATE*
  - ATT ON
  - ATT OFF

＊「ATTENUATE」はファンクションが「TV/VIDEO」または「AUDIO」のときのみ設定することができます。

索引

あ行

アルバム 37、90
アングル 49
アンプメニュー 24、32、64
アンプメニュー項目一覧表 100
一時停止モード 77
インデックス 37
オーディオDRC 77
お買い上げ時の設定に戻す 74
お手入れ 6、8、82
オリジナル 46
音声 45、50
音声映像選択モード 55
音声言語 74
音声トラック自動選定モード 77

か行

カスタム 73
カスタム視聴制限 65
画面設定 75
画面表示言語 74
クイック設定 21
言語コード一覧表 92
言語設定 74
故障かな？と思ったら 82
コントロールメニュー 96

さ行

再生
- コマ送り 37
- シャッフル再生 42
- スロー再生 36
- 通常の再生 30
- 早送り/早戻し再生 36
- プログラム再生 41
- リジューム再生 40
- JPEG画像ファイルの再生 53
- MP3音声トラックの再生 53
- PBC再生 58

再生できるディスク 9
サウンドフィールド 34
シアターシンク 62
シーン 37、90
自己診断機能 86
視聴制限 65、90
視聴設定 77
自動音場補正 71、90
字幕 50
字幕言語 74
シャッフル 42
消音 31
スキャン 36
スクリーンセーバー 76
スピーカー設定 78
- 距離 78
- 接続 78
- レベル調整 79

スピーカー配置 69
スライド送り時間 56
スライド効果 57
スライドショー 55
スリープタイマー 64
設定画面 73
- 項目一覧表 99

た行

タイトル 37、90
タイムサーチ 38
地域番号 11、90
チャプター 37、90
つづき再生機能 40、77
ディスク
- 再生する 30
- 取り扱い 82

データCD 53
データDVD 53
テストトーン 79
テレビを操作する 62
電池 13
トラック 37、90
ドルビーサラウンド（プロロジック） 90
ドルビーデジタル 45、90
ドルビープロロジックII 90
- ミュージックモード 90
- ムービーモード 90

は行

背景画面 76
早送り 36
早戻し 36
ピクチャーナビ 39
ビデオCD 58、91
表示窓 95
表示窓の明るさ 64
ファイル 37、91
プリセット 59
プレイバックコントロール (PBC) 58
プレイリスト 46
プログラム 41
プログレッシブ 27、91
プログレッシブ オート 28
プログレッシブ ビデオ 28
本体後面 94
本体前面 94
本体表示 47

ま行

マルチアングル 49、91
マルチセッションCD 11
マルチランゲージ 45、91
見たいところを探す 36
メニュー言語 74

ら行

ラジオ 59
リージョンコード 11、90
リジューム 40
リピート再生 43
リモコン 13、62

A-Z

ATTENUATE 32
AV/SYNC 50
COMPONENT VIDEO OUT 27
DEMO 24
Digital Cinema Auto Calibration 71、90
DIMMER 64
DTS 45、91

DVD 91
DVDメニュー 44
DVD-RW 46、91
DVD+RW 91
DYNAMIC BASS 63
D.C.A.C 71
INTERLACE 28
JPEG画像ファイル 51
JPEG画像ファイル日付 49
MOVIE/MUSIC 33
MP3音声トラック 51
PBC 58
TVタイプ 75
16：9 75
4：3パンスキャン 75
4：3レターボックス 75
4：3出力 76

リモコン

アルファベット順

A - O

AMP MENU 25 (24、31、62、64、100)
ANGLE 5 (49)
AUDIO 4 (45)
CLEAR 34 (37、62、74)
D.TUNING 24 (59)
DISC SKIP* 18
DISPLAY 3 (47、61)
DYNAMIC BASS 23 (63)
ENTER 13 (21、24、31、37、59)
FUNCTION 22 (27、30、31、40、59、69)
MENU 26 (44、59)
MOVIE/MUSIC 17 (33)
MUTING 7 (30)

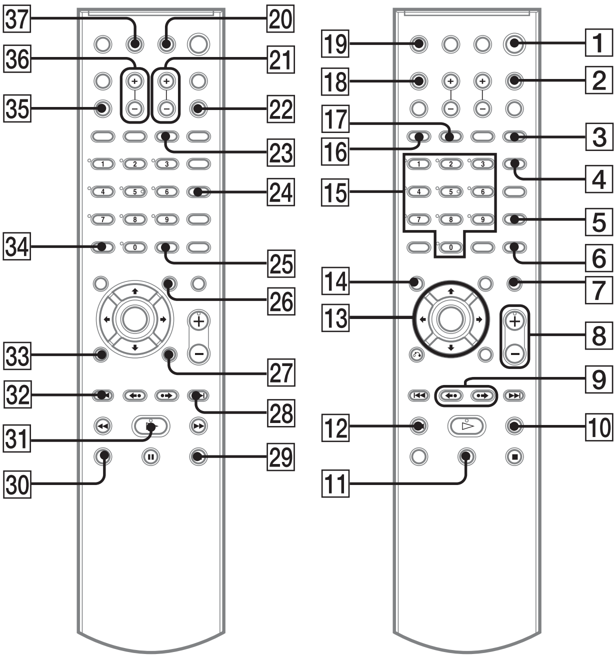
P - Z

PICTURE NAVI 6 (39、62)
PRESET +/− 28 32 (59)
PROGRESSIVE 35 (27)
SLEEP 19 (64)
SOUND FIELD 16 (34)
SUBTITLE 24 (50)
THEATRE SYNC 20 (62)
TOP MENU 14 (44)
TUNING +/− 10 12 (59)
TV 30 (62)
TV CH +/− 21 (62)
TV VOL +/− 36 (62)
TV/VIDEO 2 (62)
VOLUME +/−** 8 (30、59、79)

その他

数字ボタン** 15 (37、59、62、65)
I/⏻ (オン/スタンバイ) 1 (21、24、30、40、59)
TV I/⏻ (オン/スタンバイ) 37 (62)
←/↑/↓/→ 13 (21、24、31、37、59、65)
←●/●→ REPLAY/ADVANCE 9 (30)
⏮/⏭ 32 28 (30)
◀◀/▶▶ 12 10 (36)
◀I/I▶ SLOW 12 10 (36)
▷ (再生)** 31 (30、40、67)
◀II/II▶ STEP 9 (36)
■ (停止) 29 (30、40、65)
II (一時停止) 11 (30)
⊡ DISPLAY 27 (23、37、65、96)
↶ RETURN 33 (39)
-/-- 34 (62)

* DISC SKIPボタンは本機では使えません。
**▷、数字ボタンの5、VOLUME＋ボタンには突起がついています。本機を操作するときの参考にしてください。



よくあるお問い合わせ、解決方法などはホームページをご活用ください。
http://www.sony.co.jp/support

使い方相談窓口 フリーダイヤル‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥0120-333-020
携帯電話·PHS·一部のIP電話·0466-31-2511

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「306」＋「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

FAX（共通） 0120-333-389
受付時間
月〜金：9:00〜20:00
土・日・祝日：9:00〜17:00

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Sony Corporation Printed in China

http://www.sony.jp/pr/support/sup_hometheater.html